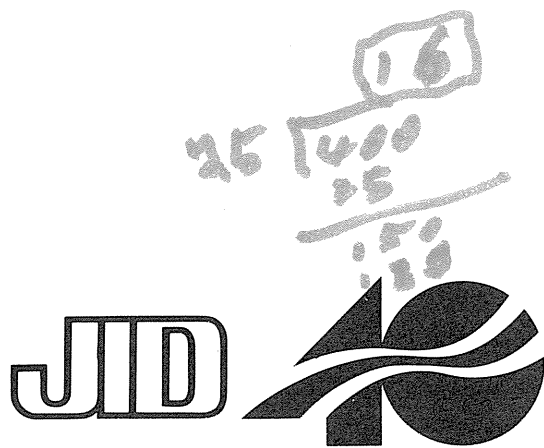




つなぐ

「創立40周年記念事業シンボルマーク&メインテーマ」

1998年「JID賞」の審査状況と今後の予定

— 応募総数90点 —

選考委員会委員長 清水 忠男

1998年「JID賞」は、協会が創立40周年を迎えるのを機に大幅にリニューアルされました。その結果、皆様に関心を持っていただいたからでしょうか、短い公募期間であったにもかかわらず、自薦のみで90点という多数の応募がありました。ご応募下さった方々に御礼申し上げます。



第1次審査は9月1日に6時間近くかけて部門ごと数段階にわたり行われましたが、応募数があまりに多いため、予定されていた絞り込みに達せず、後日、引き続き審査を継続し、9月中に終了予定。この段階を通過する作品等は、応募総数の15～20%程度になるものと予想されます。その後、10月中に、現物あるいは現地による第2次審査が行われます。現時点で見ると、応募作品等の中には、かなりレベルの高いものがあるようですし、また、新たに設定された「特別賞」や「奨励賞」の趣旨に沿うような地域貢献型あるいは実験的試みなどもあるように思われます。最終審査には、どんな応募作品等が競い合うのでしょうか。審査委員たち自身が、ドキドキしています。乞御期待！

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1998 8・9

「目次」

特集／「本部・各委員会の事業活動」

- 本部各委員会の事業活動の現状と今後 1
- 平成10～11年度運営組織図 9
- 平成10～11年度各支部運営組織図 10
- 平成10年度第1回理事会報告 12
- 日本デザイン団体協議会第1回事務局長会議 14
- デザイン・コンペ大阪 '98作品募集 16
- 松本全三さんを悼む 16
- 名誉会員・松岡宇六さんを悼む 17
- 佐々木達三名誉会員を悼む 17
- 「高齢社会のインテリア研究会」の活動 18
- 「住まいのファッションWEEK'98秋」(予告) 18
- 新入会員の紹介 19
- Pionner 20th Century/
シャルロット・ペリアン展 19
- JID NEWS関東 20
- JID NEWS中部 22
- JID NEWS関西 24
- JID NEWS九州 26
- 会員の異動 28
- 「東京デザイナーズウィーク '98」のご案内 30

「日本デザイン事業協同組合」設立の動きほか

本部・組織委員会委員長 長堀 映司

本部・組織委員会は、4月にスタートしてから5回の本部委員会（7月24日は4支部合同委員会）を行い、下記の問題を討議した。



1. JID 定款の改訂に伴い、定款と会員規定の見直しを行い、組織委員会が今までに関与した部分（名誉会員や学生会員等の会員種別問題）について検討し、8月下旬までに委員会案として定款改訂委員会に提出する。
2. 上記の仕事が終わり次第、会員拡充と退会者防止の問題を検討する。①年会費の見直し ②新入会員のサポート体制 ③退会者へコールバック ④休会制度 ⑤代理推薦人制度 ⑥会員メリットなど、組織活性化とJIDの魅力づくりを考える。
3. 支部規定、委員会規定などの見直し。

「日本デザイン事業協同組合」について

去る7月30日（木）、（財）日本産業デザイン振興会において、第2回発起人会が開催され、設立趣旨、事業計画、出資金、組織、予算などの説明があった。

今後の予定は、10月中に第3回発起人会を開催し、いよいよ設立準備に入る予定。

海外情報の積極的な活用を！

「APSDA'98クアラルンプール会議」10月に開催

本部・国際委員会委員長 山田 隆二

昨年のフォーラム「JID」を考えると、委員多選批判の指摘がなされたことも踏まえ、国際委員を固辞いたしました。海外団体との交流が前提であり、



国際関係の場面で巷間よく言われる“顔の見えない日本人”では表面的なものに終わってしまいます。「IFT'93グラスゴー会議」以来、多くの知己を得られ、各々の団

体や人間関係、この数年来の状況把握などの点から、微力ながらお手伝いすることになりました。

中でも本年度は、10月に開催される「APSDA '98クアラルンプール会議」に、JIDからも代表派遣を行います。初めて設立国以外のマレーシア開催となり、また、加盟11ヶ国のうち、9ヶ国はIFIメンバー国です。昨秋、理事を退任された中川帛子さんの後を受け、アジア地域として2名の新理事がアイルランド会議で選任されています。さらに、来年開催予定の国際デザイン3団体合同会議（6年に一度）開催国のオーストラリアも出席しますので、貴重な情報が得られると思います。

以上、例年のようにIFI・APSDA国際2団体との交流を中心に、展示会・コンペなど、会員のためになる海外情報の発信に努めて参ります。加えて、もっと会員各位に個別ではあっても、海外へ行かれる機会などに、現地のデザイナーや団体の情報紹介など当委員会を積極的に活用頂きたいと思います。

また、海外からの学生やデザイナーなどの受け入れ（研修・ホームステイ・交流会）なども、機会の許す限り実施できればと思っています。

会員意識と40周年記念事業

本部・交流委員会委員長 斉藤 武行

社会不況の中で、JID会員諸氏も少なからず影響を受け、会員数の減少も余儀なくされている中で、40周年記念事業が計画され、その一部はすでに実施に移されています。



「つなぐ」をテーマとした一連の記念事業は、次世代への協会の存在を含め、社会へアピールするチャンスでもあります。本部・交流委員会も、テーマに沿った視点を持ち、内部的には各委員会と協力し、また、対外的には賛助会員、他団体、官公庁等関係者との協力も含めその任に当たりたいと思います。

社会が活性化され、活力のある時期とは違い、全体に低調さばかりが目で見え、耳に入ってくるが、今こそ、営利団体ではない自意識のある歴史を持った団体の存在

を、外に向って示すときであろうと思います。会員1人ひとりの意識を一つのベクトルに結集し、形となって表現出来れば今後の活動にもつながって行くことと思います。「継続は力なり」と言いますが、逆境に立ったときこそ、冷静に受け止め進みましょう。

40周年広報と「Japan Design」への対応

本部・広報委員会委員長 鳥井 貴正

JID も今年で創立40周年目を迎えることになります。そして、それに因んだ様々な記念事業も着々と計画が進み、その一部はすでに実施に移されています。従って、広報委員会の今年度の広報活動は、これからスタートしました。

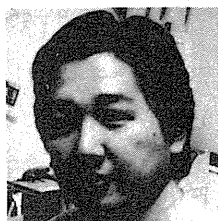
まず、今回の記念事業のテーマである「つなぐ」のシンボルマークとロゴのデザインを、湧井清一氏に依頼して制作いたしました。(JID NEWS 1998 3・4月号既報)

次に、この事業全体の計画をまとめた「趣意書」を作成、この7月初旬に、全会員を始め、関係諸団体、報道関係者などに配布いたしました。これは、今後、「40周年記念事業ニュースリリース」として第2弾、第3弾と発行する計画となっており、今後の動きはこの紙面を通して皆様にお伝えできる予定です。

また、これまでの「デジタル研究会」といった活動は、本部・総務委員会から受け継がれ、今年度から、当委員会の一環として行うことになりました。

そこで、昨年度総務委員会で実施いたしました「情報デジタル化についてのアンケート」の結果を引き継ぎ、インターネット「Japan Design」への対応を始め、会員の皆様への「パソコン導入、情報処理・仕事のデジタル化、インターネットへの参入」等のサポート体制を整えようとしています。

「Japan Design」への対応としては、現在、会員の皆様の「ホームページ」を何とかリーズナブルな価格で制作し、インターネット上で配信できるように検討中です。



また、「パソコン関連セミナー」(4支部開催)も実施したいと考えています。これも現在「パソコン入門、インターネット体験、CAD」等をテーマに、企画進行中ですので、ご案内が届きましたら皆様奮ってご参加ください。

JID「機関誌」の再刊を検討中

本部・出版委員会委員長 熊木 光吉

平成8年度に廃止され、今年度新たに設けられた本部・出版委員会に、「JIDの出版物を総合的に検討し、検討結果に基づく提案を行い、今年度内に提案の一部を実施するように」とのご指示を頂きましたが、特に「機関誌」は、JIDの活動方向を内外に示す重要な出版物ですので、6月以降の3ヶ月間に6回の委員会を開き、多くの方々にご指導頂きながら慎重に検討を続けて参りました。

北欧のインテリアデザイナー団体の機関誌のように、広く販売することによって世界に向けて発信し交流する方向で、現在、休刊中のJID機関誌「インテリアデザイン」を再刊することが理想であり、目標でもあると思われる。当委員会に、この方向での出版を期待しておられる会員も多いと思います。しかし、経済が低迷し、広告収入に期待を持てない状況下では、この方向の出版はリスクが大きいと推測されますので、環境が整ったときの出版に向けて検討作業を続けることにし、次年度より確実に継続発行が可能な「機関誌」を目指して、その方向を模索いたしております。

提言や情報交換、研究成果の紹介、最新の技術の情報提供等を活発に行い、JIDの活動目的に応える成果を目指すには、年4回程度の「機関誌」の発行が必要と考えて、「JID NEWS」や各事業支部の出版物との関連も視野に入れて、検討作業を進めております。

「機関誌」は次年度からの発行を予定しておりますが、提案内容等は、今年度に2度程度、「JID NEWS」に折り込んでお知らせし、皆様のご意見を頂く予定です。

外部編集事務所の協力を仰ぎ、会員の増加にも寄与出

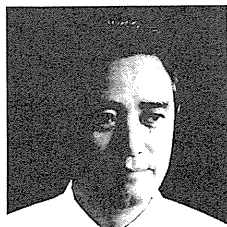


来るような魅力ある出版を目指すと共に、委員の過度の
労力負担を避け、多くの会員の方々に楽しく参加頂ける
委員会にいたすよう努力を続けておりますので、よろし
くご支援くださいますようお願い申し上げます。

新しいJIDのビジョンと可能性を求めて

本部・事業委員会委員長 中田 重克

今年の第30回通常総会での私の
質問は、『2回におけるフォー
ラム「JID を考える」での会
員諸氏の貴重な意見を検討し、
それを基に“具体的な政策”を
打ち出すべき』を強調しました。



迎えた40周年は、「新しいJID」に生まれ変われるか
の試練の時代の入口でもあると思います。この協会が良
い状態で存続するためには、今後の予測とその可能性を
詰めるべきです。

事業委員会はそれらを前向きに、積極的な「魅力づく
り」と、過去のデータ分析から近未来の予測をたて、
それに基づいた具体的な方法を探って行きます。当面の
活動の中心は次の3点になります。

- ① 過去のデータ分析による今後の可能性の予測。
- ② 協会としての受託事業の活性化。
- ③ 事務局の立地を活かした「OZONE」への積極的
対応。

●現在の活動状況

1. 受託事業の説明資料制作（資料の企画中）
2. 受託事業・参加希望登録（用紙の計画）
3. 「会員ワーク集」編集チーム（編集長・森本 勉）
が発足（実務作業中）販売元／住宅新報社に決定。
4. OZONE 関連／6Fリビングデザインギャラリーに
て、年4回JID会員展。（計画）
5. 受託事業の対応状況（現在作業進行中）
 - a (社)インテリア産業協会・インテリアコーディネー
トブック／「収納と空間構成」今秋発行予定。
 - b (社)日本インテリアファブリックス協会「JAPAN
TEX '99」トレンドゾーンJIDブース企画
 - c (財)店舗システム協会「住まいのファッション

WEEK '98」セミナー共催（詳細は本号18頁）

以上ですが、現在受託している事業の3点については、
とても会員の皆さんに公募する時間も無く、また厳しい
条件のものばかりです。事業委員会では、少しでも早く
受託事業の資料を作成し、協会の内外にご理解を頂き、
できるだけ理想的な受託システムの中で進行したいとい
う願いであります。

会員相互と社会への啓発をもとに

本部・教育・研究委員会委員長 田辺 麗子

1995年、名古屋での「世界イ
ンテリアデザイン会議」のプロ
グラム委員を勤めて以来、JID
にはすっかりご無沙汰していま
した。



この度、本部の教育・研究委員長をお引き受けはした
ものの、以前とは組織も大分様変わりして、何をしたら
いいのか、中川千早担当理事におんぶにだっこ、まあ、
とにかく全貌を理解するのに時間もかかりそうだし、私
もあと7ヶ月で定年退職するので、それからなら、と、
つい引き入れられてしまいました。

それにしても、大学教育の現場から身を引く私に教
育?! 少なくとも今期は日本インテリア学会の教育部
会長もしているので、学校教育のインテリア教育と実社
会のインテリア教育の両方に軸足を置くことになります。

研究熱心で経験豊かなJID会員の相互の教育・研究と、
社会へ「インテリアデザイン」の啓発を含む教育という
幅広い概念のもとで、本部・教育・研究委員会は新しい
メンバーで発足します。畑中 弘副委員長と他の新しい
メンバー3名の活動力に期待し、唯一、藤川征輝前・委
員の経験を頼りに、適正で公正な委員会であり、また、
柔軟に意見交換できる楽しい委員会でありたいと望んで
います。

40年振りの「意匠法改正」

平成 11 年 1 月 1 日に施行

本部・デザイン保護委員会委員長 野原 建広

去る7月末、従来からの窓口であった(株)日本グラフィックデザイナー協会を通じて、特許庁審査第一部意匠課より「平成10年意匠法 意匠審査の運用基準



(原案)」に関する意見聴取があった。／切日程に猶予がなかったため、小宮担当理事と協議し、過去からの経緯を踏まえた上で「短期間に全国的に意見をまとめるに至らなかった」との回答を行った。

●運用基準(A4版73頁)の大項目は次の通り。

- ① 部分意匠の意匠登録出願
- ② 組み物の意匠の意匠登録出願
- ③ 関連意匠の意匠登録出願
- ④ 意匠登録の要件
- ⑤ 意匠登録を受けることができない意匠

なお、この法改正(平成11年1月1日)に関する解説セミナーが、去る9月11日、(株)ジュウリーデザイナー協会、去る9月25日、(株)日本インダストリアルデザイナー協会、それぞれの主催にて開催され、後者については、すでにご案内のようにJIDが協力した。

「公益法人の設立許可及び指導監督基準」の一部改正などと定款改訂

本部・定款改訂委員会委員長 長谷川 隆之

●通産省からの通達とJIDとしての回答

平成10年度事業計画の本部・特別事業として決定した標記への取組みは、平成8年9月20日、



政府の閣議決定に基づいて、同12月19日、公益法人等に関する関係閣僚会議幹事会申し合わせによる、「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用指針」として、所轄の通産省からJIDを含むデザイン8団体に対する指導

に対応して行われるものである。

その後、本年2月5日には、通産省デザイン政策室より、「公益法人の設立許可及び指導監督基準」に整合した定款となるよう、平成11年9月までに改訂するよう督促があり、同時に「社団法人定款の基本的モデル」が送付された。

さらに、同3月30日付で、2月10日に行われた JID に対する法人監査結果の業務改善指導の一部として

- ★ 定款に規定している内容が不十分なので、「社団法人定款の基本的モデル」に準拠して早急に定款の改訂を行うこと。
- ★ 理事構成を、指導監督基準に合致するよう改善を行うこと。

これ等の事項については、具体的な改善方法を検討し、平成10年4月17日までに、改善策を報告するよう指示を受けた。

これに対して、当協会は、理事長から通産省生活産業局デザイン政策室長宛に同4月20日付文書により、

★ 定款改訂について、

平成10年度において「定款改訂委員会」を設置、改訂作業に着手、平成11年の通常総会承認を目指します。

★ 理事構成の改善について、

平成10年度設置の定款改訂委員会において検討課題とします。

と回答し、平成10年度本部事業計画の中に特別事業として、定款改訂委員会(今崎 務担当理事／長谷川隆之委員長)を第30回通常総会に提案、その承認を経て、「本部・定款改訂委員会」が組織された。

委員は、杉本真二郎副委員長、尾関 文夫、笠松 栄、川上 信二、見城 美子、須長壮太郎、安松 一雄委員、の7名。

●第1回委員会の開催／定款改訂に関わる問題点など

第1回委員会を6月23日(火)に開催し、去る2月10日の法人監査の折、業務改善の指導と、定款改訂の指示を受けた内容について、川上監事と森谷事務局長の双方から、指示内容とこれまでの対応の説明を受け、通産省からの定款改訂指示文書の引き渡しを受けた。

現行の JID 定款と、国の定める公益法人の指導監督基準及び、通産省が今回示した定款の基本的モデルとの間には大きな隔たりがあり、定款改訂に関係があるところは次の通り。

公益法人の機関は、当該法人の健全かつ継続的な管理運営を可能とするとの観点から、少なくとも次の事項に適合していなければならない。

(1) 理事及び理事会

①～④ 略。

⑤ 前半略。理事のうち同一の業界の関係者が占める割合は、理事現在数の2分の1以下とすること。

(運用指針) では、

★同一の業界の関係者が理事の多数を占めている場合には、そのような法人は、積極的に不特定多数の者の利益の実現ではなく、その業界のみの利益や親睦を目指すものとなる恐れが有ることから、同一の業界の関係者が理事現在数の2分の1以下とする必要がある。

平成10年2月4日付通産省デザイン政策室からの調査依頼の件での通達では、1. 項略。

2. 理事数について、同一業界の関係者が占める割合が理事現在数の2分の1となっていない法人は、平成11年9月までに必ず是正するように早急に着手願います。

なお、デザイン事務所経営者等のいわゆるフリーデザイナーの理事は、同一業界者であることに留意。

(2) 監事

① 監事は、法人の会計、財産、理事の業務執行等の状況を監査するために重要な機関であることから、以下略。

(運用指針) 略。

平成10年1月7日付通産省生活産業局デザイン政策室からの通達、2項 その他の注意事項

(2) 監事選任について

次期役員改選時に以下の対応を行うこと。

①業界関係者又は所管官庁の出身者以外(会計の専門家が好ましい)から1名以上監事を選任すること。

②社団法人の定款で会員以外の者が監事に就任することを認めていない場合には、速やかに定款を改正すること。

★平成10年2月10日の法人監査によって改善の要請を受

けた事柄のうち、定款改訂に結びつくものとして、「名誉会員」の取り扱いに関する指摘がある。

◆社団法人の構成員は、正会員と賛助会員によって構成される。従って、特別扱いの「名誉会員」は許されない。早急に定款改訂を行うこと。

年齢、在籍年数によって分離する場合は、個人の賛助会員とする。「名誉会員」という称号の付与は協会としての裁量の範囲であるが、「正会員」を存続すること。

◆公益法人の目的に対して、会員に差をつけないこと(民法上の社員としての正会員と、目的に賛同し事業に協力する賛助会員で構成される以外に名誉会員といった特別扱いの会員は認められない)

◆現在名誉会員制度があり、今すぐに廃止出来ない場合は、減少することを考え、実施に移すこと。(新たに1人でも増えることは、絶対止めること)

◆会員の中で、その道の先輩として大切な人、これからは助言を頂きたい人などは、定款の顧問制度を活用し、その場合でも任期を定めること。

◆名誉会員として、崇め祭ることや古しいがらみにとらわれないこと。

◆対外的意味から、名誉会員の称号付与と言ったことが考えられるが、その場合でも民法上の社員としての正会員であることが先決。

◆従って、現行の会員規定にある名誉会員に関する条項は、全てあり得ない。

◆以上は、現在、全省庁あげて取り組んでいることでもあり、現行のままであると「社団法人」存続の可否にもつながる問題である。

★以上の定款改訂に指示を受けている問題点としては、

◇法人を構成する「社員」と認められない「名誉会員」の扱いに関して。

◇公益法人の理事会を構成する「理事」の業種別構成比と会員資格に関して。

◇監事の1名を会計の専門家等から選任することに関して。

以上の3点である。

★「定款」は、公益法人としての日本インテリアデザイナー協会の存続と活動の根幹をなすものなので、定款改

訂委員会では、今回の所轄官庁からの指示による改訂作業の一応の方向として、JID が社団法人として存続して行くことをベースとして取り組み、その存在が広く社会に受け入れられ、現在から将来に向かって会員が納得し、支持を得られる定款改訂に行きたい。

与えられた時間の中で、出来るだけ多くの意見を集め、議論を尽くして行きたいので、委員以外の全会員の方々の積極的なご意見を期待します。論点を明確にして簡潔な書面で、ご意見・ご提案を「定款改訂委員会」宛にお寄せください。出来るだけ、審議過程と併せてJID NEWSの誌上に発表して行きます。

●第2回委員会の開催／名誉会員に関わるこれまでの経緯など

第2回委員会は7月21日（火）に開催し、前回の会議にて、一応の説明を頂いた、通産省から改正指示資料について、改訂に関して、大きな問題がある部分の洗い出し、改訂作業の進め方について話し合いを行った。

事務局長に調査を依頼した、JID と同様に今回改定指示を受けているデザイン関係団体の、特に「理事の業種別構成比」についての取り組みと、「名誉会員制度の有無とその内容」について。

今回の特別事業としての「定款改訂委員会」発足以前から本部・組織委員会などが、経過的に取り組んで来た定款改訂に係わる部分で、関係している事柄について。それぞれ森谷事務局長から説明と報告を受けた。

●第3回委員会の開催／組織委員会検討報告及びデザイン8団体の取組みの現況と今後など

第3回委員会は、8月26日（水）に開催し、本部・組織委員会から「名誉会員制度」について、現在の検討内容とその経過などの説明を受けた。（浅野担当理事及び長堀委員長）続いて森谷事務局長より、デザイン8団体による「平成10年度第1回事務局長会議」における標題への取組みの現況と今後の進め方について報告を受けた。さらに、委員会として、又事務局の協力によって集めた建設省など他の省庁傘下の「公益法人」の定款と理事の業務構成や名誉会員制度、さらに所轄官庁の改定指導や対応などについて、収集した情報物を確認した。分析・検討は次回行うこととした。

創立40周年記念事業の幕開けへ

創立40周年記念事業実行委員会委員長 泉 修二

清涼の9月を迎えて、いよいよ40周年記念事業の幕開けです。討議を重ねてきたイベントの数々も、9月25日の関東フォーラムを皮切りに、出版、JID展、祝典と、秋の深まりと共に、20世紀最後のJID記念事業が展開されます。7月にお手元にお届した「趣意書」で不明瞭であった箇所を含め、委員会ごとの現状報告を記します。



1：式典・祝賀会委員会（秋山修治委員長）

会場は東京フォーラム、ビッグサイトなど幾つかの候補から東京オペラシティ／SKY WINDOWS に、挙行は平成10年12月3日に決定しました。当日のイベント中、本年度から拡大一新された「JID賞」の表彰式も行われます。

2：講演・シンポジウム委員会（山本其観代委員長）

組織内対象としての3つのテーマ「日常の仕事」「社会的関わり」「21世紀に向けた活動」が、9月25日の関東フォーラムを始めとして、各支部別に同テーマで連続的にフォーラムが行われます。締めくくりは来年4月のシンポジウム「21世紀に向けたインテリアデザイナーの主張」で、インテリアに関わる他団体からのパネリストも参加して頂くことも予定されています。

3：展覧会「日本の近代デザイン展」（鈴木恵三委員長）

20世紀の空間系モダンデザインの集大成として、図録も整備された巡回展が計画されています。来年7月のOZONE、2000年2月の宇都宮美術館以外に、名古屋の国際デザインセンター、大阪のサントリーミュージアム、九州の熊本美術館との交渉も進められています。

4：JID展「椅子」100人・100脚・100m（阪井良種委員長）

テーマが示すように、賛助会員を含む会員の椅子（必ずしも椅子でなくとも、座などに関する展示できる提案も可能）が、本年11月18日～21日の4日間ビッグサイトで行われる'98東京国際家具見本市会

場で協賛イベントとして展示されます。なお、関西事業支部でも同テーマ企画を進めています。また、同支部では「インテリアデザイナーのハンカチ展」といったことも計画中です。

5：会員ワーク集／出版委員会（木村戦太郎委員長）

今春から募集を始めたので、ご存知の会員も多いと思われますが、現在最終段階。「インテリアデザイナーの仕事」をタイトルにした会員ワーク集です。A4版ワーク掲載180ページ、特集30ページで、特集には「JIDのあゆみ」といった年表も挿入されます。12月には会員諸氏のお手元に届けられるでしょう。

6：広報委員会（竹岡美智子委員長）

シンボルマークやロゴ、プレスリリースなどの制作を行ってきましたが、第2回目の修正版「趣意書」を9月に発行の予定。

7：財務委員会（田中聡行委員長）

事業基金協力の依頼文の作成や全体の財務管理を担当しています。

「趣意書」の予算案でお判りのように、過去の記念事業予算と比較すると微々たるものですが、内容としてはしっかりしたものを狙っています。また、明瞭な違いは各委員会、各支部の独自予算で±0、言い替えれば稼いで使うことを原則にしたことです。不景気な時期とは言いながら幸い共鳴して下さる企業もあり、巡回展なども可能になりつつあります。

とは言え、会員諸氏にご寄付をお願いしています。イベントへの参加と俱に意中をお汲み取りの上何分のご協力をお願いいたします。

平成10年度 中小企業活路開拓調査・実現化事業に着手

活路開拓事業委員会委員長 平井 美蔓

本年4月より準備を進めてきた「平成10年度中小企業活路開拓調査・実現化事業」申請書が7月9日受理され、当事業はスタートしました。これは、昨年度の活路開拓ビジョン調査事業「インテリア新素材の流通実態と潜在市場に関する調査研究」において策定した



具体化へのビジョン実現道程へと、一步踏み出したことを意味します。

本年度の実現化事業では、エコ・インテリア素材による住まい方モデル提案を〈環境共生時代におけるインテリアデザインのあり方〉というフレームで捉えます。酸性雨、地球温暖化、環境ホルモン、ビルシック症候群など、いくつものトピックが検証されはじめて久しく、環境に負荷をかけない生き方を問い直されている現在、「グッドデザインからグッドモラルへ」の、静かで大きな動きを感じる申請書作成準備期間でした。

構成メンバーとしては、平成9年度事業において、ご協力頂いた益田文和氏〔㈱オープンハウス〕・中村邦雄氏〔大妻女子大学〕に加えて、岡田紘史氏〔「室内」編集部〕という3人の専門家委員構成に対して、JID 委員側は、北海道から九州までの委員が参加します。関東－高橋三太郎（北海道）・中川千早・畑中 弘・平井美蔓・宮本茂紀、中部－坂田守正、関西－加藤 力・松本忠、九州－飯田一博、賛助会員－川島晴夫〔㈱リビングデザインセンター〕。（計13名）

去る8月3日、第1回本委員会を開催、全国中小企業団体中央会より福永健司主幹、JID 泉理事長、森谷事務局長らを加えて、事業実施計画案の説明と検討を行いました。今後の活動内容は改めてご報告いたします。

「椅子」100人・100脚・100m ■作品募集中■

すでにご案内のように、「創立40周年記念事業」の1つとして、上記の記念展を企画し、作品の募集中ですが、現在、募集予定の100名にあと一歩です。再度、皆様のご参加をお願いいたします。

●募集内容 (w) 1,000.×(d)900. のスペース内に展示できる「椅子」の実物。

●開催時期 1998年11月18日(水)～21日(土)

●開催場所 東京国際展示場（東京ビックサイト）

●応募資格 JID 会員（賛助会員企業含む。但し、デザイナー名が表示できること）。

●展示参加費用 ￥30,000.-

●応募方法 送付済の「参加申込書」に必要事項を記入し、本部事務局にFAXしてください。

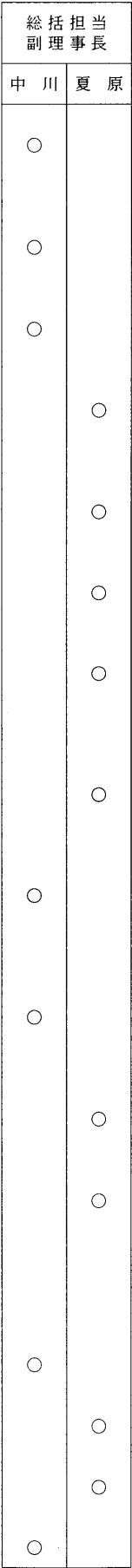
(FAX 03-5322-6559)

※お手元に書類が無い方は事務局にご請求ください。(TEL 03-5322-6560)

(「椅子」100人・100脚・100m

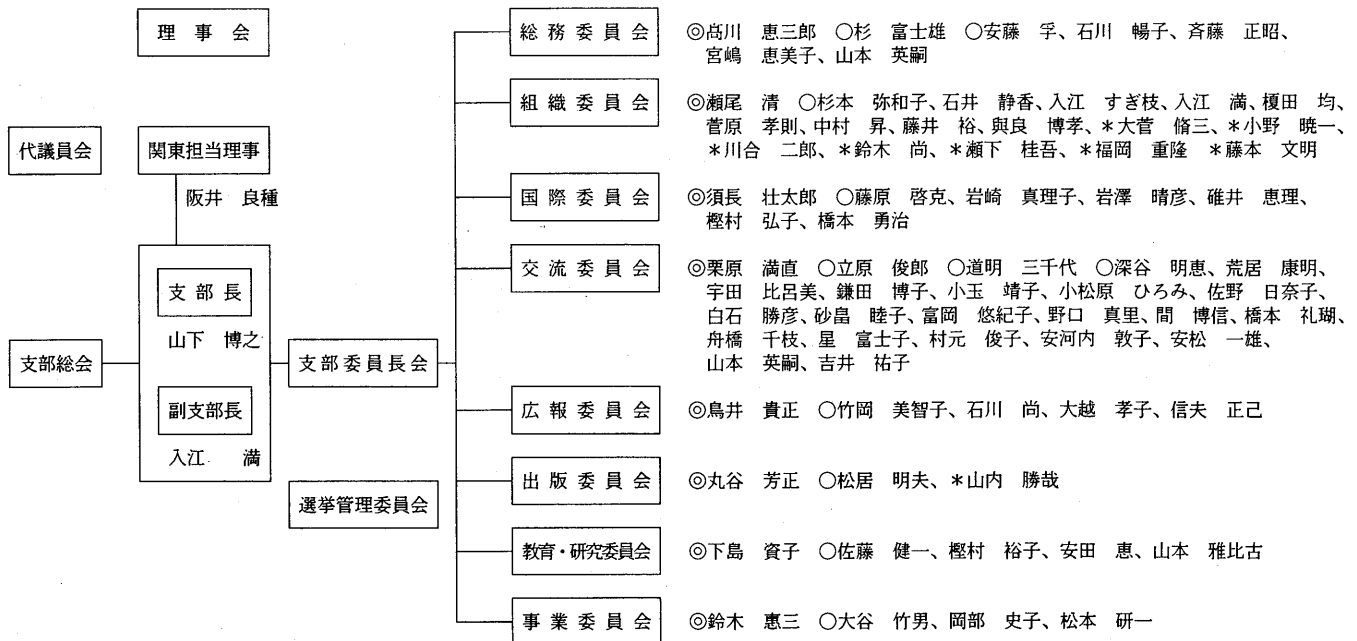
実行委員会委員長 阪井良種)

平成10～11年度 運営組織図



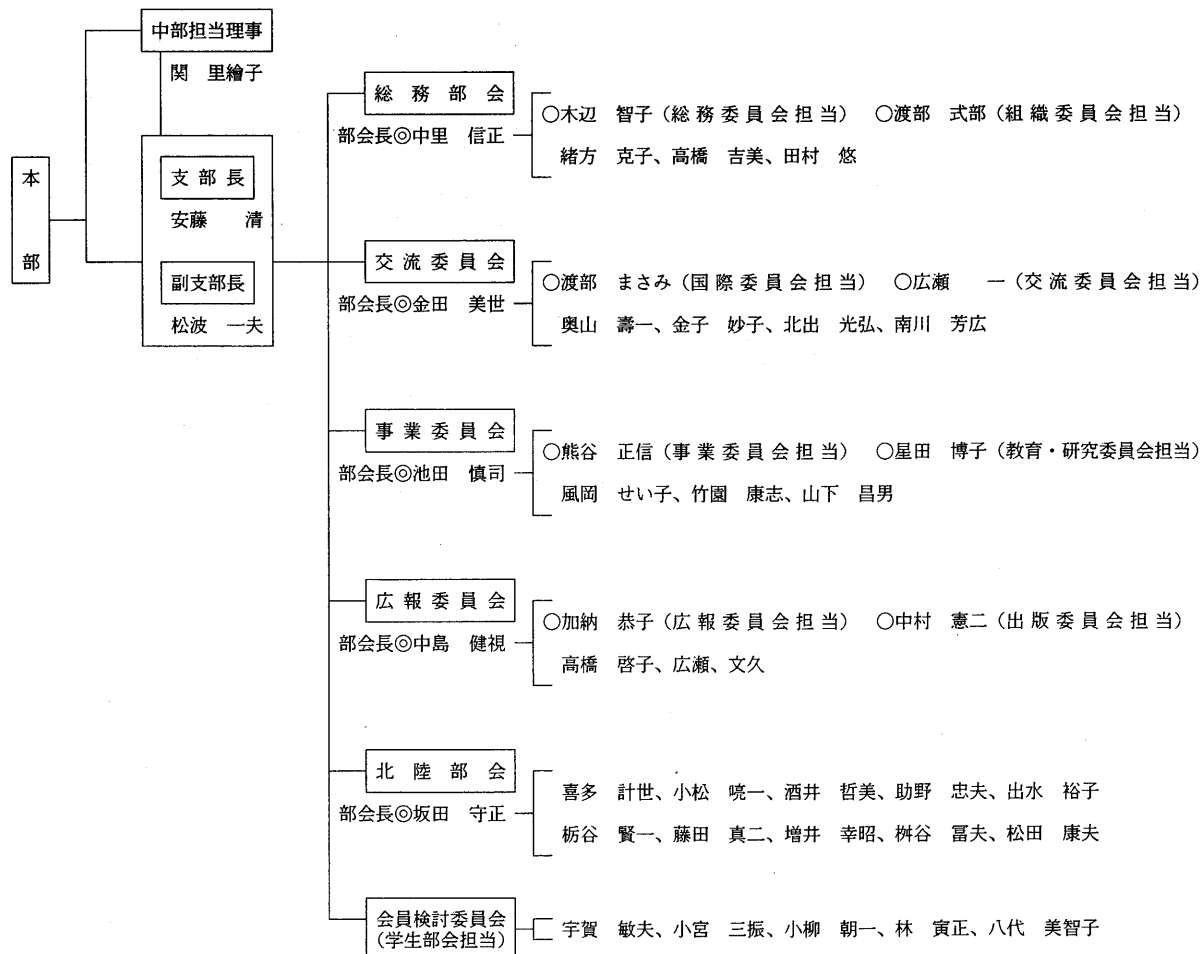
平成10～11年度 関東事業支部運営組織図

◎委員長 ○副委員長 *賛助会員

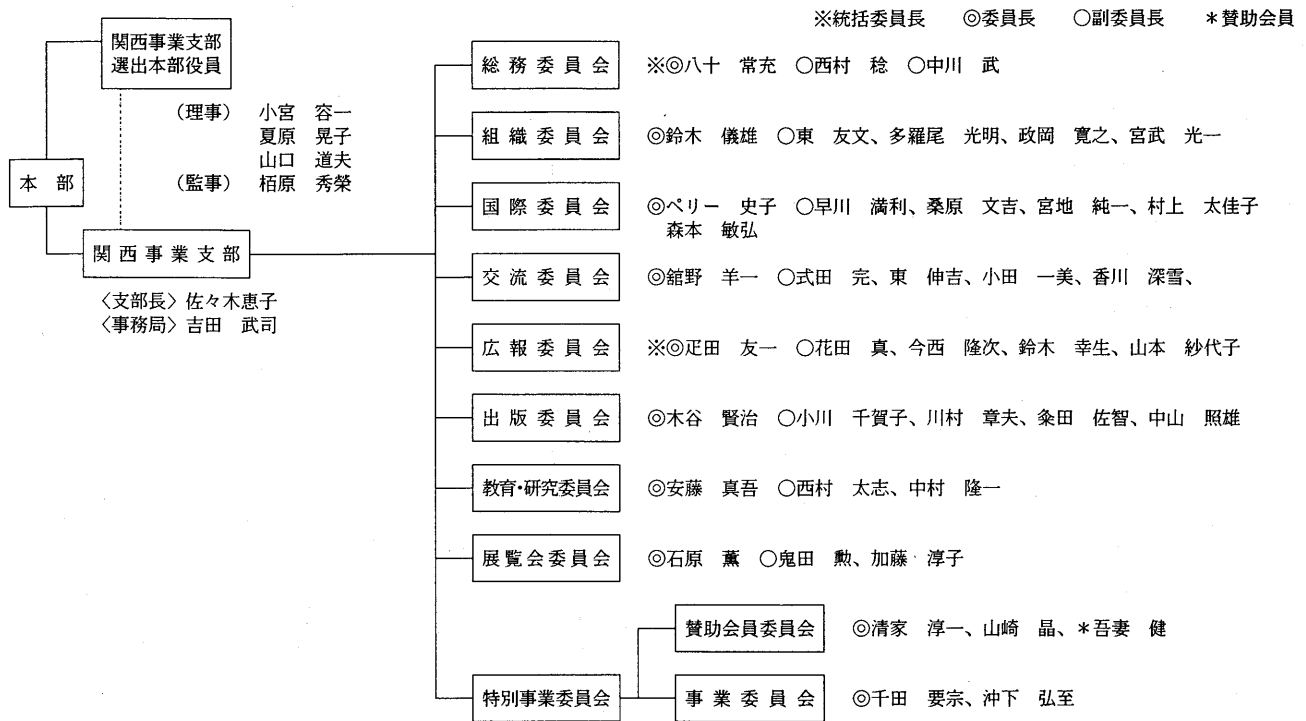


平成10～11年度 中部事業支部運営組織図

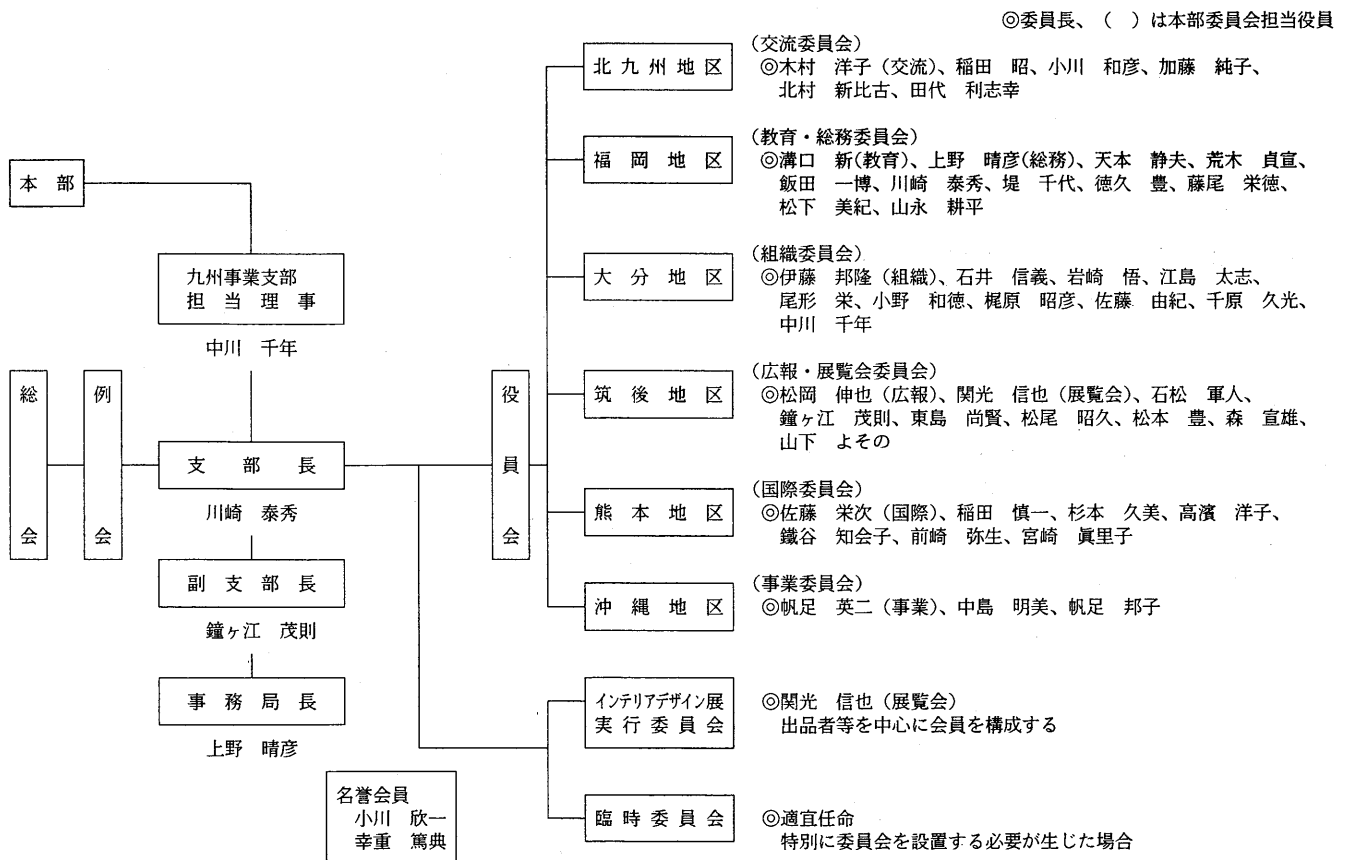
◎部会長、○副部会長



平成10～11年度 関西事業支部運営組織図



平成10～11年度 九州事業支部運営組織図



平成10年度・第1回理事会報告

①会議名：平成10年度・第1回理事会

②日時：平成10年5月29日(金) 13:30～15:25

③場所：JID 本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席14名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、夏原晃子

(理事) 浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、
木村戦太郎、吉良ヒロノブ、
小宮容一、阪井良種、関 里繪子、
中川千年、中川千早、山口道夫

(委任状) 山本棟子

(監事) 栢原秀榮(欠席)、川上信二

(事務局) 森谷延周

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 第30回通常総会ほか進行予定
- (3) 平成9年度会計監査報告
- (4) 平成9年度権利停止予定者
- (5) 通産省業務監査報告
- (6) 委託業務契約締結(2件)について
- (7) 賃貸借契約締結について
- (8) その他

⑥ 議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状1名で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛・共催名義承認の件

事務局長が下記7件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「ATC オープン4周年記念フォーラム」 後援・新
1998年4月10日(金)

主催 アジア太平洋トレードセンター(株)

◎「第20回大阪インターナショナル・ギフト・ショー・秋98」

協賛・継

1998年9月16日(水)～18日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「国際家具デザインフェア旭川'99」

後援・継

1998年6月1日(月)～1999年7月11日(日)

主催 国際家具デザインフェア旭川開催委員会

◎「遊牧民の心・夢・華 キリムの素晴らしい世界展」

後援・新

1998年4月25日(土)～5月17日(日)

主催 アジア太平洋トレードセンター(株)

◎「住まいのファッションWEEK'98秋」

開催記念運動セミナー

共催・新

1998年10月12日(月)～16日(金)

主催 (助)店舗システム協会

◎「第4回『本の学校』大山緑陰シンポジウム」

後援・継

1998年8月28日(金)～8月30日(日)

主催 第4回『本の学校』大山緑陰シンポジウム実行
委員会

◎「'99 建設資材データベース」

推薦・協賛・新

1999年1月発行(毎年発行)

主催 (助)経済調査会

第3号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記17件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員(2件)

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
荒 井 雄 一	関東	中川 千早・藤田信一郎
川 島 道 代	関東	森谷 延周・長堀 映司

退会 正会員(13件)

氏 名	支部	氏 名	支部
相 澤 晴 夫	関東	山 腰 實	中部
窪 田 緑	関東	須 川 武 博	関西
高 島 幸 一	関東	高 瀬 洋	関西
當 山 建 道	関東	福 森 文 雄	関西
若 井 修 子	関東	前 川 穰 司	関西
渡 辺 和 子	関東	諫 山 光 夫	九州
内 記 悦 子	中部		

退会 賛助会員（2件）

氏 名	支部
(株)青島商店 カンカーペット(株)	関東 関西

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は木村戦太郎、小宮容一両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長が、資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（阪井）

去る5月8日（金）、京橋・INAXアーキプラザにて第6回「デザイン職人四方山話」（佐々木達三名誉会員）を開催（参加者51名）したことを中心に報告。

●中部事業支部（関）

今後、安藤 清支部長が（中部デザイン団体協議会選出のデザインコミティ委員）国際デザインセンターのデザインギャラリー企画に関与することになったこと及び、5月23日（土）～5月24日（日）に支部総会を開催（福井、28名出席）したことなどを報告。

●関西事業支部（夏原）

「インテリアデザイン学生の会」による第5回～第7回「インテリアデザインの現場」を開催したこと及び、5月22日（金）に支部総会を開催（25名出席）したことなどを報告。

●九州事業支部（中川千年）

去る4月11日（土）、新年度の第1回役員会を開催したこと及び、4月25日（土）に支部総会を開催（16名出席）したことなどを報告。

●選考委員会（森谷）

「JID 賞」の大幅リニューアルに関して、その目的、対象領域や受賞数の拡大、審査報告の方法や表彰式など、清水忠男選考委員長に代わって報告を行った。

●総務委員会（山口）

新年度のスタートを前に、委員会人事及び事業計

画の概要を提示し報告した。

●組織委員会（中川帛子）

4月末に新旧交替の委員会を開催し、新年度の活動に受け継いだ旨報告した。

●国際委員会（浅野）

去る4月末、「APSDA '98 クアラルンプール会議」に備えた準備会議が当地にて開催された。不参加のため状況は不明。開催にあたっては、JIDとしても応分の協力が必要となるなどを中心に報告。

なお、中川帛子理事よりIFI に関して、去る5月中旬、IFI 創立35周年記念行事があった旨補足した。

●交流委員会（岩倉）

新年度のスタートを前に委員会人事を決定したこと、今後、全国支部や諸団体との交流などの事業計画を立案したい旨報告。

●広報委員会（吉良）

40周年記念事業絡みの広報先の絞り込み及び、本部・総務委から移行のデジタル研究会の動向や関連のアンケート結果について報告した。

●事業委員会（木村）

「会員ワーク集」掲載申込受付を継続中。今後、企画頁の内容決定や掲載原稿の入手依頼などを行いたい。一方、「'98 東京国際家具見本市」への特別イベントとセミナーの企画提案について、3月末～5月上旬に至るワーク状況を説明。結果として、先方より見合わせたい旨、連絡を受けたことを報告。なお、関連して斡旋業務の取扱について質疑が行われ、より一層明確化を図ると共にJID NEWS 等にて報告することとした。

●教育・研究委員会（中川千早）

特に進展がないことを報告。

●デザイン保護委員会（今崎）

去る3月30日（月）、最終の委員会を開催し、活動成果を確認、併せて新年度の委員会人事に言及し報告した。

●創立40周年記念事業実行委員会（泉）

6月中旬に「趣意書」を作成したい。日本の近代デザイン展（仮称）など、いずれも現段階では不確定要素が多い状況にある旨報告。

なお、報告資料外の報告として、新年度から着手する出版（代理・泉）、定款改訂（今崎）、活路開拓（中川千早）の各委員会から、それぞれの動きについて若干の報告があった。

議長は(1)報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

(2) 第30回通常総会ほか進行予定

本日の理事会後に開催される第30回通常総会、関東事業支部第5回支部総会（OZONE セミナールーム）、懇親会（CLUB SQUARE）など一連の予定を報告した。なお、関連団体からの出席は10団体13名の予定。

(3) 平成9年度会計監査報告

金子、川上両監事を代表して川上監事より、4月21日実施の監査結果について、帳簿並びに関係書類の正確性を確認したこと、収支決算書、財産目録と会計諸帳簿の記載とが符合し、法人の収支状況及び財政状況を正しく示している旨報告。

(4) 平成9年度権利停止予定者

作成した資料に基づいて、平成9年度年会費未納による権利停止予定者は、32名、2社と報告。

(5) 通産省業務監査報告

平成10年2月10日に行われたJIDに対する業務監査に対して、去る3月30日付にて、通産省より改善策の提出依頼文書が届いた。その対応として、回答文書を作成、去る4月20日付にて提出した。さらに、業務監査における具体的指摘内容（12項目）など、いずれも資料に基づいて報告した。

(6) 委託業務契約締結（2件）について

会計業務委託契約（大沢洋子税理士事務所／平成10年5月20日付）

清掃業務委託契約（東京ガステクノサービス(株)／平成10年5月13日付）

2件の締結について報告。同文書を回覧した。

(7) 賃貸借契約締結について

賃貸借契約（東京ガス都市開発(株)／平成10年4月27日付）締結について報告。同文書を回覧した。

(8) その他

●通商産業省担当部署

人事異動

デザイン政策室室長 新：小島 幸治（こじま こうじ）

旧：會田 雅人（かいだ まさひと）

新事務室：本館9F西4 TEL 03-3501-1863

FAX 03-3501-6782

●計報 工藤 廣忠（名誉会員・初代事務局長）

平成9年9月27日逝去 享年93才

●JID NEWS 5・6月号 6月30日(火) 発行予定

●次回理事会開催予定（'98 第2回）

平成10年7月22日（水）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

日本デザイン団体協議会 平成10年度第1回事務局長会議報告

①日 時：平成10年7月29日（水） 16：00～18：10

②場 所：(株)日本インテリアデザイナー協会
本部事務局 会議室

③議 題：

1. 「公益法人の設立許可及び指導監督基準」の一部改正について
2. Gマーク民営化に伴う「内覧会」8団体PR展示について
3. 二科会デザイン部入会希望について
4. 「デザイン保護研究会」再開について
5. 平成9年7月～平成10年6月決算報告（JAGDA）
6. 幹事協会引継ぎについて（JAGDA～JID）
7. その他

④出席者：JIDA：野中康子、JCDA：雨宮 民、
JAGDA：田辺輝男、SDA：小川定紘、JJDA：上田幸子、DDA：川上 薫（上田木綿子）、
JPDA：鈴木優一、JID：森谷延周（田口康之）
合計10名 （ ）内は事務局員

⑤進行・議事録作成：JID：森谷

1. 「公益法人の設立許可及び指導監督基準」の一部改正について

はじめに JPDA：鈴木事務局長より、定款改訂に備えた JPDA 作成の内部資料「デザイン8団体他、定款比較表」を配布、参考としての説明があった。

つぎに、すでに入手の標記通達のうち、理事及び監事の構成を中心に、各事務局長が、順次、現在の検討状況について述べたあと、今後の方策を検討した。

2. Gマーク民営化に伴う「内覧会」8団体PR展示について

これまでの経緯を確認した上で、「産デ振」提示の展示プランを討議した。

その結果、8団体紹介の展示パネルは、「Japan Design」の原稿をそのまま活用して頂く。（必要によりロゴマーク、記録写真を提供）「物」の展示については、開催日が切迫している時間的条件から、対応が難しく見合わせて頂く。

この2点を「産デ振」側に回答し、対応をお願いすることとした。

3. 二科会デザイン部入会希望について

「産デ振」紹介を発端としたこれまでの経緯を確認した上で、先方から提示の「入会によせて」などを中心に討議した。

その結果、基本的に同会が文化庁の認可・所轄団体であること。一方、当協議会のデザイン8団体は、通産省の認可・所轄で構成されていること。この相違点と、それに伴う諸活動などから、入会希望に馴染まないとし、この点を、申し入れ者の鳥越修治氏に回答することとした。

なお、この件に関連して「日本デザイン団体協議会規約」（1966年制定）上の確認を行ったが、規約そのものが現行と全く整合していないため、別途、改めて討議することとした。

4. 「デザイン保護研究会」再開について

去る7月13日、JAGDA 経由で大倉富美雄委員長より標題の提案があった。それに対して、これまでの動きを確認し、討議した。

その結果、まず9月に予定されている同研究会の平成9年度活動報告会を開催、その折りに今後の進め方を検討してもらう。その上で再開の必要の場合は、テーマ、人事、予算措置、スケジュールなどを決め、活動を再開する。これまでの経緯から、JAGDA：田辺事務局長にその間の調整をお願いすることとした。

なお、関連してJJDA：上田事務局長より、準備中の改正意匠法セミナー（9月11日）開催計画の説明があった。また、JIDA：野中事務局長からは、同様に準備中（9月25日）であり、改めて内容を伝えたいと述べた。

5. 平成9年7月～平成10年6月決算報告（JAGDA）

前・幹事協会 JAGDA：田辺事務局長より同決算報告があり了承した。

（平成10年7月15日現在の差引残高は、1,534,297円）

6. 幹事協会引継ぎについて（JAGDA～JID）

新・幹事協会JID：森谷事務局長より、去る7月15日、JID本部事務局にて、関連帳簿、関連ファイル、預金、印鑑など必要な事務的引継ぎが行われたことを報告した。（立ち会いはJAGDA：松山、JID：森谷、高木）

7. その他

＊「産デ振」プロジェクト推進部報告

「Japan Design」……検索システム、Who's Who 進展状況、アクセス状況。「日本デザイン事業協同組合」……発起人会発足（4月17日）第2回発起人会（7月30日）、設立趣旨骨子（案）。両状況報告が届き配布、後刻、各団体で目を通すこととした。

＊8団体職員懇親会の開催

日 時：平成10年7月29日（水） 18：30～20：30

場 所：イタリア料理「トラットリア ペルベネ」
新宿パークタワー B1F

TEL 03-3344-4123

上記の開催について、準備状況と進行を確認した。

JID 関西事業支部事務局 TEL/FAX 番号変更

この度、関西事業支部事務委託先の(株)大阪デザインセンターの都合により、以下のように番号変更となりました。ご面倒でもお手元の番号簿をご訂正ください。なお、所在地及び担当者は変更ありません。

●新番号 TEL & FAX 06-615-5105

●旧番号 TEL 06-262-5664
FAX 06-262-5665

●変更日 平成10年9月1日

（本部事務局）

デザイン・コンペ大阪 '98

テーマ「住まいと暮らし～
バリアフリーとエコロジーを考える」

デザイン・コンペ大阪運営委員会では、「デザイン・コンペ大阪 '98」の作品を募集します。本年度で第22回目を迎える本コンペは、新しい産業分野に寄与するテーマを通して、新鮮で個性あふれるデザインを全国から公募するものであり、デザイナーの登竜門として、全国の企業やデザイン学校などから多数の応募を得ています。

本年度のテーマは、「住まいと暮らし～バリアフリーとエコロジーを考える」として、「バリアフリー」と「エコロジー」の2部門をテーマに、あらゆる分野からの発想・機能・造形に優れた独創的なデザイン提案を募集します。

●名 称：デザイン・コンペ大阪 '98

●主 催：デザイン・コンペ大阪運営委員会

〈構成＝大阪府・大阪市・大阪商工会議所
・(財)大阪デザインセンター〉

●テ ー マ：「住まいと暮らし～バリアフリーとエコロジーを考える」

これからの住まいと暮らしに、重要なキーワードとなる「バリアフリー」と「エコロジー」を2つの部門テーマとして、バリアフリー対応や、環境意識の高まりの中での市場性を考慮した住宅機能をはじめ、生活用品、用具等の製品開発、システムの改善など、プロダクト、インテリア、ファッション、グラフィック、パッケージ等各分野にわたった発想・機能・造形に優れた独創的なデザイン提案を募集。

●応募受付：1998年11月30日(月)～12月5日(土)

●応募先：財団法人 大阪デザインセンター 業務部
(下記問い合わせ先参照)

●賞 大賞 1点 賞状：副賞100万円
優秀賞 1点 "：副賞 30万円
優良賞 3点 "：副賞(企業賞)10万円
奨励賞 3点 "：副賞 5万円
入選 若干 "

●発表：1999年2月予定

●公開展示：デザインフェア OSAKA '99 会場

1999年3月予定 ATC (アジア太平洋トレードセンター) ITM棟

●お問い合わせ先：財団法人 大阪デザインセンター
業務部(担当 釜田)

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1-4-208

船場センタービル 4号館 2階

TEL 06-262-5661 FAX 06-262-5665

Eメール odc5661@mbox2.inet-osaka.or.jp

ホームページ <http://home.inet-osaka.or.jp/~odc5661/>

松本全三さんを悼む

関東事業支部会員 飯嶋 房樹

全さんが逝った。

入院を知り、学友たちと発破を掛けに出掛ける矢先での訃報である。一度は克服した病に、今度も乗り切るべく全力を上げていた中での心外な旅立ちである。余りにも早い旅立ちである。



普段から余り多くを語る人ではなかったが、生来の凝り性と相まって、人知れず、じっくりと行動、努力するタイプの人だった。

学生時代から独特の雰囲気と、独自のスタイルと行動様式を持っている人だった。仏教系の大学からICS(インテリアセンタースクール)へ入った変わり種である。

卒業制作では、椅子を制作し、見事に「校友会賞」を獲得した。卒業後は(株)総合デザインに入社してデザイン活動を開始、やがて独立し、フリーの立場で(株)アール・ビー・都市建築設計との関わりの中で、ターミナルビルプロジェクトにおける内装監理のスペシャリストとして、建築設計デザイン業務を担当し、柏そごう、大阪なんばシティー、広島そごう、東京大丸等全国各地で活躍されていた。

いつも突然の連絡でやって来て、旧交を温めると次の仕事へ行ってしまう。暫く音沙汰が無いなと思っていると、ふらっと現れるといった関係で、28年間お付き合いさせてもらった。今だに信じられない。普段身近にいな

くとも、会うだけで一気に学生時代にタイムスリップ出来る友人が、この世から姿を消したことが信じられない。

何とも残念である。今は心から彼のご冥福を祈るばかりである。合掌。

名誉会員・松岡宇六さんを悼む

九州事業支部担当理事 中川 千年

九州事業支部の重鎮であった名誉会員の松岡さんが亡くなってしまった。ご高齢とはいえ、このところ健康上の問題はないように聞いていただけに、突然の訃報はショックであった。発作から数時間後に危篤状態となり、そして間もなく……。まことに残念である。あらためてご冥福をお祈りしたい。



松岡さんは熊本県天草のご出身、抜群の秀才で、戦時中は陸軍の特務機関で活躍されたが、戦後、大川の地で松岡漆工を創業して以来、一貫して日本人の生活に溶け込むような情緒性豊かな家具を、世に送り出してこれた。実用性を重視したアイデアと、家具の持つべき感性とが見事に融合した松岡さんならではの数々の優れた商品は、今も生き続けている。

松岡さんは重厚、寡黙なお人柄の故か、いささか誤解されたところもあるようだ。先年他界された名誉理事だった坂本康四さんと小生を加え3人で、久留米のある料亭で松岡さんの代表作の座卓を囲んで歓談したことがある。松岡さんは「わたしは大川の三奇人の一人といわれているらしい」と苦笑されたが、私は「松岡さんこそ正当で、それが見えない人の方が多くなってしまったんですよ」といった記憶がある。

軽薄な世情に迎合することなく、自らの信念による経営の姿勢を貫かれた。奇人は当たらないが、希有的人であったことは確かである。

松岡さん亡き後、社業を引きついだ息子の伸也君は、父君に勝るとも劣らぬ感性の持ち主で、JIDの仲間である。理念の継承は当然のことながら、実務の面でも着実に業績を伸ばしており、後顧の憂いはない。

松岡宇六さん、安らかに眠りください。合掌。

佐々木達三名誉会員を悼む

関東事業支部会員 中村 真

去る5月8日、京橋のINAXアーキプラザでJID主催/第6回「デザイン職人四方山話」が催され、「佐々木達三氏/日本の近代デザインを築く」のタイトルで



気取らないお話があった。その僅か2ヶ月後に他界されるとは、誰も知らない実に劇的である。享年92才であった。

1906年、築地・明石町生まれの江戸っ子で歯切れが良く、1927年東京高等工芸学校木材工芸科卒で三菱ドックの船舶内部艤装に就職。若き日、山を愛した達三氏は、東京・目黒の柿の木坂辺に山小屋風の家を建て、こゝに住み、デザイン工房を持った。戦後は石川播磨重工の艤装に携わって来られ賠償船の仕事なども手掛けていた。

この頃、私も助手として先輩の小池一郎氏と共に艤装の妙味を実感したが、造船界が不況となり、その後、変化して行く様も垣間見た。ドックから離れて種々の雑貨のデザインが動きを見せた。当時、米国のレイモンドローウィ氏の「口紅から機関車まで」による影響もあって、インダストリアルデザインへの関心も深まって来たものの、フリーランスデザイナーとして活動して行くには大変な時代であった。

先例の無い国民車計画が発表され、軽自動車「スバル360」の誕生となる。フリーのデザイナーが手掛けた初期の仕事であり、造形共々エンジニアリングの構築が大事で、達三氏の柔軟なこだわらない資質が生き成功したと思う。

ところで当時余り世に知られていなかった素材の研究が造形上の変化を生み、このことが近年実証されている。数年前に逝かれた奥様との協調で、長年続けて来られたテキスタイルの試織や、七宝焼、陶壁を発展させる等、クラフトデザインへの活動は、この時代の男たちには珍しく、銀座・和光での個展では目を見張るものがあり話題にもなった。

美術大学で若い人たちと接して行く中で、物づくりの意欲と飽くことの無い職人氣質が、次第に大きな輪に育って来ている。お弟子さんたちに囲まれて、昇天なさるまで現役であられた達三先生はお幸せだったと想う。合掌

「住まいのファッションWEEK '98 秋」

●セミナー「豊かな生活・様々なライフスタイル」

講 師 ●山本寿美子氏（雑誌「ドリーム」編集長）

●JID 中田重克会員

●JID 宮代紀子会員

開催日 ●1998年10月13日(火)

時 間 ●13:30～16:00 (13:00開場)

会 場 ●東京・新宿 OZONE 8階セミナールームA

雑誌「ドリーム」の編集長山本寿美子氏を迎えて、具体的事例をもとに、ライフスタイルを解説して頂きます。気持ちいいナチュラル&ヘルシーなオーガニックインテリアから、最近流行のアジアンスタイルまで。現代日本に展開した、デザインエッセンスを見ながら、聞きながら、スタイルに迫る2時間。

聞き手はJIDの中田重克会員と宮代紀子会員。

●パネルディスカッション「シルバーインテリアの問題点」

講 師 ●JID 加藤 力会員

●JID 宮城由紀子会員

●JID 横江禎子会員

開催日 ●1998年10月16日(金)

時 間 ●13:30～16:00 (13:00開場)

会 場 ●東京・新宿 OZONE 8階セミナールームA

造形人間工学の視点から、高齢者のみならず介護者にとっても安全で健康、便利で快適な空間のあり方について、具体的に障害の程度や差異によるインテリア環境の改善事項やその手法について解説します。また、現状の問題点と今後の方向などについても解りやすく説明してゆきます。

定 員 ●いずれも60名

参加費 ●いずれも一般2,500円

SSSS、JID、OZONE プロフェッショナル、各会員2,000円

共 催 ●財団法人 店舗システム協会／

●社団法人 日本インテリアデザイナー協会

協 力 ●株式会社 リビング・デザインセンター

申込先 ●財団法人 店舗システム協会

「住まいのファッション WEEK 事務局」

〒107-0061 東京都港区北青山 2-12-5

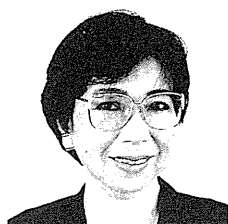
KRT 青山ビル1階

TEL 03-3401-4021 FAX 03-3402-5033

「高齢社会のインテリア研究会」の活動

1998年度代表・関東事業支部会員 村元 俊子

本研究会の発端は、1989年に行われたJID創立30周年記念事業の一環「シルバー社会のインテリア研究会」（リーダー・JID会員・古藤司郎）として発足しました。「高齢期を自立して健康に過ごすためのインテリアのあり方」に関心を持った有志が集って活動を始め、1991年には「研究報告書」を作成し、高齢者関係の資料が少ない当時でしたが、多くの方々に活用して頂きました。



その後も各種の高齢者施設の見学を始め、種々の調査

・研究を継続し、1994年に、JID 会員による自主研究活動の登録制度「JID 登録研究」として認定されました。そして、1995年の「IFI '95 名古屋」世界インテリアデザイン会議の折には、分科会「優しさのある空間」への関連パネル展示に協力しました。

ときには、JID 内の各委員会とセミナーやイベントを協催したり、一方、研究会の研究結果を各自の仕事に活用しています。

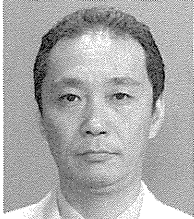
通常の活動は、月1回の例会で各自が研究、調査した事項の報告発表を基本として、随時、新しい関連施設の見学を実施しています。

これからも、超高齢社会の中で、高齢者が健康で積極的に生きがいのある人生を送れるような住まいづくりの研究を続けていきたいと思っています。多くの皆様のご理解とご協力をお願いすると共に、新しいメンバーの参加を歓迎しております。

【 新 入 会 員 の 紹 介 】

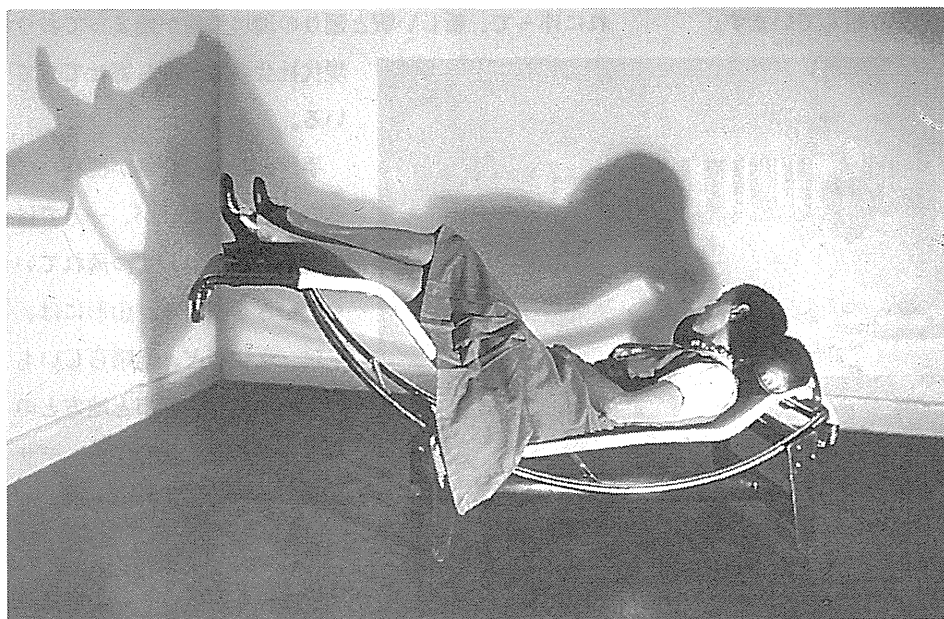
● 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

● 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
すけ の ただ お 助 野 忠 夫 会員番号 1161 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)すけの SUKENO 富山県高岡市三好127 〒933-0013 TEL 0766-25-4190 FAX 0766-26-1400 富山県高岡市城東1-1-3-703 〒933-0041 TEL 0766-25-2270 森谷 延周・鈴木 恵三
おか べ ふみ え 岡 部 文 絵 会員番号 1162 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	Okb design 東京都世田谷区北沢1-20-3 小杉ビル1F 〒155-0031 TEL 03-5790-5778 FAX 03-5790-5779 東京都多摩市鶴牧6-16-5-102 〒206-0034 TEL 042-338-3632 泉 修二・岩倉 榮利

Pioneer 20th Century シャルロット・ペリアン展 1998年10月3日(土)～11月3日(火) 東京・新宿OZONE 3Fパークタワーホール

シャルロット・ペリアンは今世紀の代表的建築家、そしてモダニストのル・コルビュジェの協力者として広く知られています。1903年生まれの彼女が世に送り出した家具や建築には20世紀のデザインのエッセンスが込められ、多くの人を魅了し続けています。



シェーズロング/1928 台座に沿ってスライドさせるだけで様々な姿勢が得られる
© Archives Charlotte Perriand, 1998
© Charlotte Perriand/ADAGP, PARIS & SPDA, TOKYO 1998

日本との親和性も高い彼女の現在までの足跡をたどる本展は、1996年10月から1997年4月までの半年間、ロンドンのデザインミュージアムで開催され、好評を博したものを日本向けに再構成したものです。

● 開館時間

10:30～18:30

(入場は18:00まで) 水曜休館

● 入場料

一般 700円 学生 600円

(中学生以下無料)

● 前売券500円

入場券のお求めはJID本部事務局へ。開催期間中販売します。

開かれた関東事業支部

関東事業支部副支部長 入江 満

絶妙のチームワークで、2期4年間活発に活動してきた関東事業支部の各委員長が、今期大幅に入れ替わりしました。4年という任期は、事業計画を遂行するのに丁度いい活動期間で、委員の入替えも活動のマンネリ化を防ぎ、新たな活力を生み出すために必要なことです。

新委員長にバトンタッチをした旧委員長の皆さん、長期間ご苦労様でした。私も一緒にめでたく卒業する予定でしたが、山下支部長の指名により、副支部長の大役をお引受けすることになり、更にもう2年間、各委員長と共に頑張っていこうと思います。

今年も活発な事業が期待されています。交流委員会恒例の「デザイン職人四方山話」は7回目を計画中で、広報委員会の雑誌等へのPRも功を奏し、会員以外の参加者も増えてきました。

国際委員会は須長新委員長に代わり「海外インテリアデザイナーの情報」、デザインセミナーや展示会の紹介と交流など、以前とは違った切り口で取り組んでいます。

教育・研究委員会も下島新委員長になり、活動内容が変わりました。「社会に発進するJID」のタイトルのもと、これからの住まいづくりの提案や他団体・賛助会員との協力体制で展示会やセミナーを企画したりと、JID内外に向けての情報発信が多くなって来ています。

また、総務委員会の「関東事業支部内規」の一部見直し検討や、組織委員会の準会員・学生会員（仮称）制度の検討等、関東事業支部としての内部の調整にも取り組んでいます。

「開かれた関東事業支部・開かれた委員会」をモットーに、楽しく活動することを目指す山下支部長を、微力ながらサポートして行きたいと考えています。

都市と地方の関係

関東事業支部広報委員会委員 信夫 正己

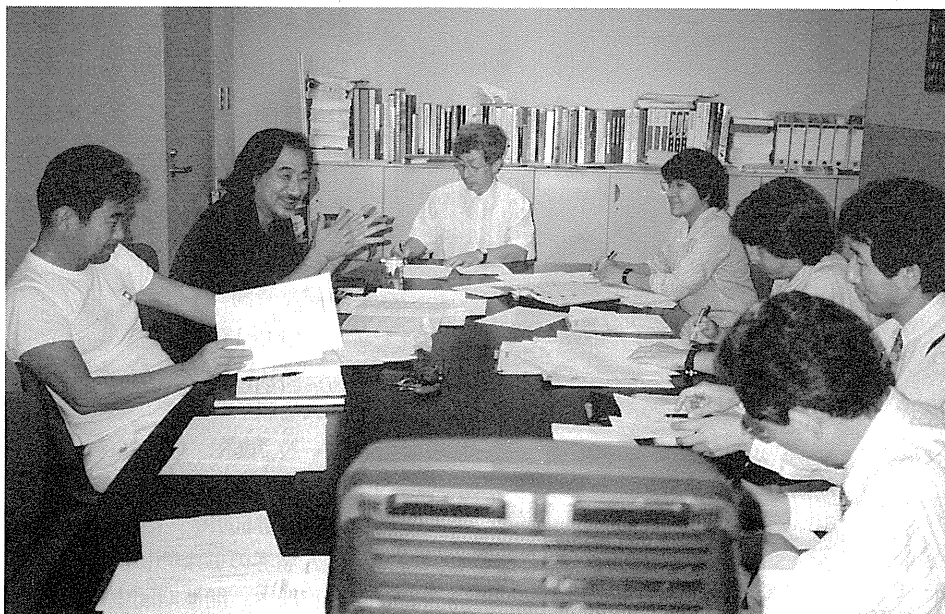
私の住んでいる山形は、昔は東京へ上京するのに特急電車で5、6時間もかかって、日帰りで東京へ行って仕事することはとても難しかった。

しかし、ここ10数年の間で大きく変化した。2つの空港と山形新幹線、高速道路などができ、時間的にかなり短縮され、東京で仕事して日帰りすることが可能になった。さらに今、山形新幹線が北の新庄市まで延長することが決まり、平成12年開業を目指し動き始めている。それに伴って、新しい駅と廻りの環境整備が始まっており、

現代社会の波が押し寄せてきている。

手段として、交通が便利になるのはとても良いが、一方では山形らしさが少しずつ薄れていく寂しさを感じる。山形には、伝統、文化など、素晴らしいものが沢山あり、都市と地方とのバランスの取れた関係を、デザインの視点で考えたいと思っている。

皆さんも素晴らしい山形発見に足を運んで見ませんか。



関東事業支部委員長会議の1コマ

「賛助会員」の施設利用のご案内

関東事業支部組織委員会委員長 瀬尾 清

関東事業支部組織委員会では、数年にわたり「賛助会員とのメリットある連携」について模索してきましたが、その討議を通して、基本的には賛助会員と正会員の“出会いの場”を数多くつくることにより、情報や商売など、相互にメリットが発生するとの認識に至りました。

“出会いの場”づくりの具体的な方法の一つとして、「賛助会員」の施設を、JID 活動に利用させてもらえないだろうかという「案」が浮上し、この度、その「スペース借用に関するアンケート調査」を、関東事業支部賛助会員全71社に対して実施いたしました。

その結果、24社から返信を頂き、その内の18社が施設利用可能という回答でした。このアンケート結果は、集計・分析後、リスト表とし、本部・各委員会や関東事業支部委員会等に報告いたしますが、施設利用は、セミナーや委員会など、JID の具体的な活動について、賛助会員の皆様の理解と交流を得るチャンスでもあります。

「リスト表」に併せて、現在、具体的な運用方法などの検討の段階ですが、今後の事業や委員会活動に積極的に利用して頂きますようご案内いたします。

なお、ご利用の際は、担当の瀬尾／杉本または事務局へお問い合わせください。最後になりましたが、賛助会員の皆様には、お忙しい中を「アンケート調査」にご協力頂きまして誠にありがとうございました。

支部の枠を超えた情報の共有を

関東事業支部出版委員会委員長 丸谷 芳正

JID ビデオライブラリー第1弾佐々木達三いよいよ発売！と声高らかに言いたいところなのですが、前回、「四方山話」でお話頂いた佐々木達三さんが、7月7日に92才で急逝されました。

京橋のINAXアーキプラザで、力強くしゃべられたのがそのわずか2カ月前とは、本当に信じられません。後から、その前後の佐々木さんの様子を知る人から聞いた

話ですが、講演のときの佐々木さんは、かなりお痩せになっていて驚いたとのことでした。きっと、最後の力を振り絞ってあの日はお話しになられたのですね。そうとも知らずに、なんと元気なおじいさんだななどと感心していたのですからすみません。

でも、佐々木さん！とっても素晴らしい「ビデオテープ」が出来上がりました。佐々木さんにお見せ出来なかったのは、とても残念ですが、このテープは佐々木さんのパワーで漲っています。撮影も編集もあり上手とは言えませんが、そんなこと気にならない位、素晴らしいお話しが詰まっています。編集で何十回となく聞いて、普通なら飽きてしまうところですが、とても気持ちよく何回も聞かせて頂きました。また、中川千早さんとのやりとりが微笑ましく毎回笑ってしまいます。この編集に関われたことを私は幸せに思います。

それと、このビデオの発売（配布の方が適切ですが）はとても意味があると思います。例えば、関西事業支部でどんな活動が行われているのか私にはわかりません。JID NEWS で各支部の活動が紹介されていますが、仲々気持ちの共有とまでは行きません。JID が何を目指しているのか、何を発信しようとしているのか、そんなことを築き上げる場が必要だと思うのです。必要なのは双方向の情報の共有だと思います。このビデオがそんなことのきっかけになればと思います。お申込みお待ちしております。

JID ビデオライブラリー いよいよ発売！

●ビデオの申込方法

価 格 3,000円（送料込、振込料加入者負担、
直接販売の場合も3,000円）

郵便振替 00190 - 8 - 70792

口座名称 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
関東事業支部

注：なお、通信欄に「佐々木達三ビデオ入手希望」と併せて「会員番号」を明記してください。また、2本以上申込の方は、予め事務局にご相談ください。

当面、販売先は会員と会員が関わる教育機関に限定。

イタリア「ミラノサローネ」を見て

中部事業支部事業部会副会長 熊谷 正信

'98年ミラノサローネは、去る4月16日(木)～21日(火)まで開催された。展示構成は①国際家具展17会場 ②国際照明展2会場 ③室内装飾品展6会場でした。(このうち国際照明展は隔年置きで開催)、なお、'99年はキッチン関係の展示年となります。

①**国際家具展** 今日のインテリア傾向を示すように、単品製作の展示ではなく、照明・ファブリック・小物等を含めたライフスタイル別展示が特徴であり、出展企業には、展示テーマとコンセプトを明確に表現することが求められます。

展示会場の中でイタリア以外の参加国で目についたのが、ドイツ連邦共和国(2フロア)とスペイン(1/2フロア)です。ドイツ商品の全体的な印象は、機能面重視で価格面ではイタリアの3割高、スペインの4割高で来場者や商談者の数も他より少なく、展示方法もイタリアのライフスタイル別に対して、単品展示でした。

一方、スペインの商品は製品性能・デザイン・価格のバランスも良く、家具だけではなく照明器具も同様に、今後注目に値すると思われます。イタリアの家具については、従来の伝統的な製作技術を背景に、生活上の身近な点や、細部に焦点を置き、デザインを再考する傾向と見受けられました。

トレンドとしては、自然素材とアルミ、ガラス、皮革、樹脂との組み合わせ。カラーはライトでソフト、ナチュラル・カラー。健康とリラクゼーション&コミュニケーション。この3つです。

②**国際照明展** ミラノの建築家“マリオ・ペリーニ”による設計で、今年オープン建物2棟で開催。照明の世界は家具に比べてより独創的で、創造的であり、デザイナーの英知がよりダイナミックに表現され、過去から現在、そして未来の表現世界がそこに展開されていました。この世界も単一化から複合化へと変化。それは一つの照明器具の中に、複数の光源(光の種類が異なるもの)の組み合わせや形状の変化するもの。これらは、生活環境のより演出的効果と自己創造性を掻き立てる内容であり、非常に興味深いものでした。

③**室内装飾品展** 本格的に室内空間として施工した中に、ライフスタイル別にコーディネートされたブースが続き、まさに、本場の室内装飾の伝統と技を見せつけられたと同時に、世界中の室内装飾を一気に見られたそんな場所でもありました。



尖塔とステンドグラスが美しいドゥオーモ



「室内装飾品展」スナップ

ケルン国際家具見本市を見て

中部事業支部事業部会部会長 池田 慎司

今年のケルン国際家具見本市は、1月19日～26日までの8日間の開催でした。

展示面積275,000㎡という広大なメッセ会場は、世界110カ国から15万人の来場者があり、115,000人が家具専門のバイヤー、そして外国人の割合は約1/3でした。

今年はアジアの経済状況悪化のせい、アジアからの来場者が少なく感じられました。

ケルン国際家具見本市は、世界で最大級の家具メッセで、多くの家具輸出関連業者にとっては、参加することが必然的なメッセとなっています。そこでは世界の需要と供給が一堂に会し、多国間あるいは二国間、さらには同じ国同士のメーカーとバイヤーの取り引きなど、様々な商談が行われていました。出展参加企業数は45カ国1420社、世界のあらゆる家具が展示され、外国からの出展参加の比率は62%に達しました。

ケルンメッセ以外のメッセは、どちらかと言えば、自国の家具業界を中心とする国内メッセの傾向が強いのが一般的です。例えばミラノの家具メッセに参加する外国企業の比率は12%で、ケルンメッセに参加していたイタリア企業数は226社は、ミラノに出展する外国企業の総数(159社：1997年)を上回っています。また、パリの家具

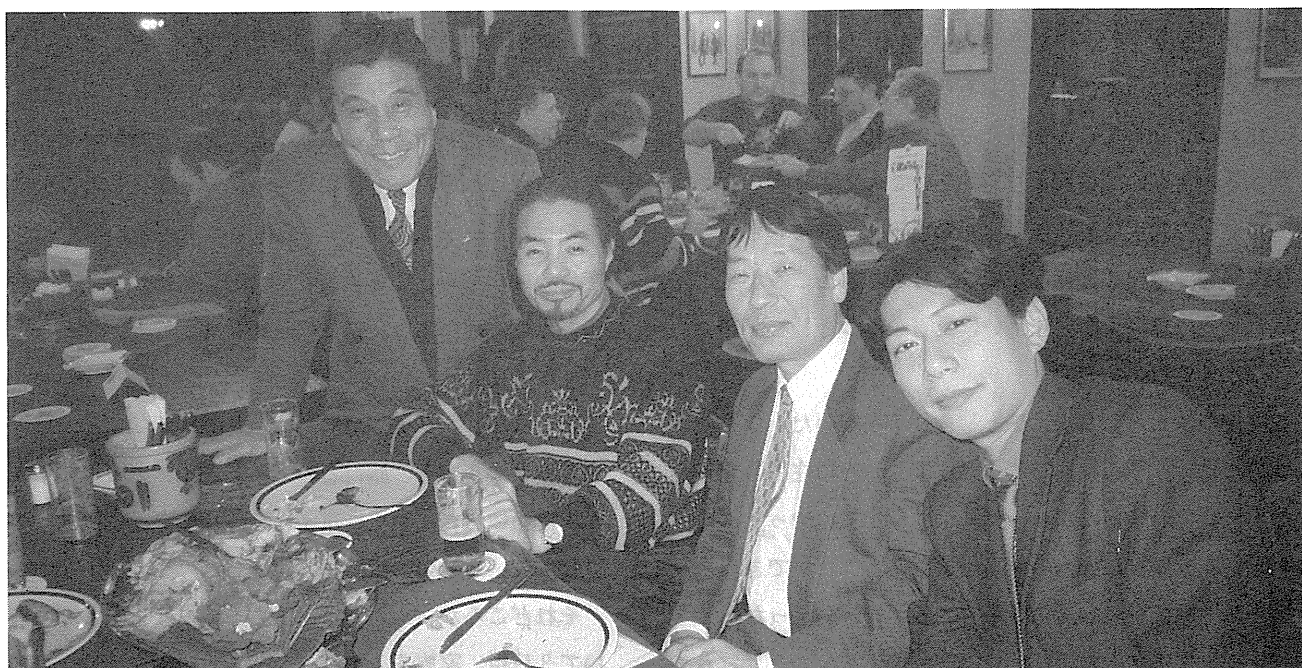
メッセに出展している外国企業の約2倍ということです。

このような国際メッセに日本のメーカーが殆ど見られないのは、日本の国内メーカーがいかに世界に目を向けていないかということが感じられます。内需が低迷している状況の今日、世界の市場を考えて見るのも一つの選択肢ではないかと思われます。

今回のケルンメッセには、新しい試みがいくつかありました。その一つはキッチンメーカーの展示です。業界関係者の要望に答えて同時展示となりましたが、来年は照明器具が展示され、今後は偶数年をキッチン、奇数年を照明と交互に展示されます。次に、国際的に著名なデザイン研究所であるIndustrie Forum Design Hannover（インダストリーフォーラム・デザイン・ハノーバー）主催の「IFデザイン賞」の授与が行われました。これはスタンド建築を含めた参加企業の総合的なコンセプトが評価の対象ということでした。

今回のケルンメッセの傾向としては、ライト系の木材が依然として主流を占める中に、ダーク系が多少増加していました。ファブリックスではナチュラルとダーク色また、そのミックス。素材面では椅子にプラスチックが増加し、アルミ等メタルとメッシュ、ガラスと石の木材との組み合わせ。機能面では多目的利用や変身機能があるインテリジェント家具が増加。

生活が洗練され、新しい習慣が生まれている今日、世界のメーカーが、ユーザーの要求に答えようと懸命に努力している姿勢が伺える展示会でした。



ケルンでの楽しい会食、左から2人目が池田慎司会員

最近、考えていること・・・

関西事業支部会員 小川 千賀子

こんにちわ。

関西に来て、早3年目を迎えるようとしています。そして、関西でのJIDの活動には、少しだけ参加させて頂いております。

(まだ子供に手がかかるため、思うように参加できないのが悩み。) 思うようにはいきませんが、それでも暖かく見守って頂き、なんとか、ぶら下がっているというのが正直なところでしょうか。

先日、やっと震災復興マンションでご依頼を受けたマンションのリフォームを納品させて頂きました。(トータルすると何人のお客様と出会ったでしょう。) 今回のリフォームの場合は、検討を重ねた結果、補修という考えにやっとまとまりました。大規模な修繕費を積立金以外に用意することは大変なことです、それでも、その場所が好きで、そのコミュニティーが好きで、傷だらけの住まいをもう一度復活させたいという方のお手伝いをさせて頂いたことは、とてもありがたいことでした。

「住まい」を考えると、その住まいに愛着を感じてくださるお客様の顔は何よりも嬉しいことです。限られた厳しい予算の中でも、住まいを考えることの楽しさを一緒に体験できたことは、私にとっても学ぶところが多かったように思います。住まいに愛着を持つと、心が豊かになりますね。

震災後の慌ただしさが、ひとしきり落ち着いたかな、と思います。もちろん、まだまだ、多くの方の住宅の問題は片付いていませんが…。そのような中で、やっと、我が家も、全壊した主人の実家を建替えることができそうです。(お客様のことに夢中で、我が家は、ほったらかし…。いけませんね。)

我が家にも愛着を!! そう考えているこの頃です。



今年の夏の感動

関西事業支部会員 宇津崎 光代

長身でスラッとして、色白で美人でスポーツマンだった私の自慢の母が、リウマチに苦しみ手術を繰り返し、1級障害者の手帳を貰って久しくなる。



亡くなった父が小学校の校長をしていたお陰で、少しずつ恩給を頂いて生活している母。お金も使わず、何の楽しみもなく、死にたい、なんて漏らしていたのに、一昨年、ひ孫ができてからコロッと人が変わった。まず、「死にたい」を口走らなくなった。1人で歩けなくなったというのに、タクシーに乗って、ひ孫を見に来るのを日課にするようになった。1才……と日を重ねるごとに、「ひいおばあちゃん……」と話しかけるようになって可愛さが増してきた孫。この、ひ孫の“大輔が命”となってきた。

ところで、今年のお盆休み、急に母、私、長女、長男、次女、婿、大輔と、一緒に思い出づくりに行こうということになった。母のパスポートをとって上げ……何と79才。いつの間に年をとったのかな!!年令を知ってびっくりした。

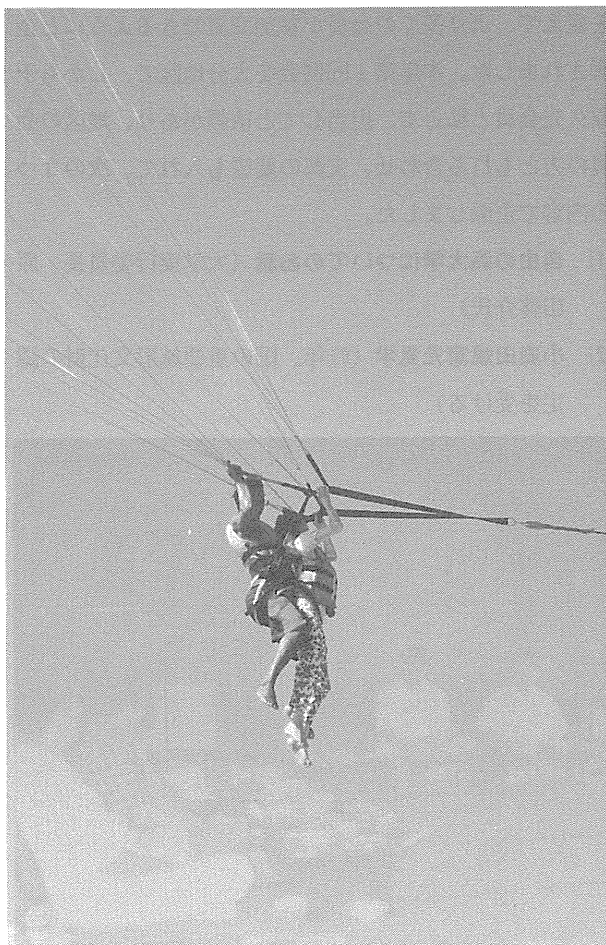
車イスの母を連れて、急遽、海外旅行を、ということになったが、ギリギリで遅く、どこもない。どこでもいいからと予約をとって貫いバリ島に出発!!生まれて初めての車イスの旅。何と不自由なこと。息子と婿がいてくれたから行けたけれども、乗りものに乗り換えるたびに他人の助け — 大変である。JRの駅、ホームから電車、空港の中の移動、まあ大変!!これが超高齢社会になったらどうなるのだろう。自分の老後を考えると、ゾーッと寒くなった。

ところが、バリ島についたら、まあ親切なこと。飛行場でもホテルでも、旅行者のガイドさん、車の運転手さん、本当に皆さんすぐに車イスを持って先々に行動して下さり、その姿には感動した!

それどころか、もっとびっくりしたのは、バリ島に着いて3日目、家族5人がパラセーリングにチャレンジした日の夕食のとき、79才の母が「一度私も空を飛んでみ

たい」という。79才で1級障害者の母が……本当にびっくり！それを聞いた長男、現地のインドネシアの友人（数時間前に浜で仲良しになった）に、その旨を話したところ、早速知人に頼んでくれた。それで4日目に、もう一度家族全員で浜に出ることにした。しかし、79才の障害者のこと、OKが出ない！息子と現地の友人も一緒に家族全員で必死にお願いした。そして、「同意書」にサインしてやっとOK。これで死んでも本人は本望だろう。

順番を待ち、やっと母の番。本人は少し緊張した様子。スタッフの助けを借り、インストラクターの手を借り、モーターボートが走る。インストラクターと母が空に舞う！びっくりしたのは現地の人、白人、まわりの一杯の人が一斉に拍手をして、ワーッと歓声をあげてくれたことだ。いつ？どこから？集まってくださったのかびっくりした。皆、車イスの老いた母が空に舞ったチャレンジ精神に拍手してくれたのか。思わず涙が溢れた。言葉の通じない沢山の人に頭を下げた。このバリ島のこの

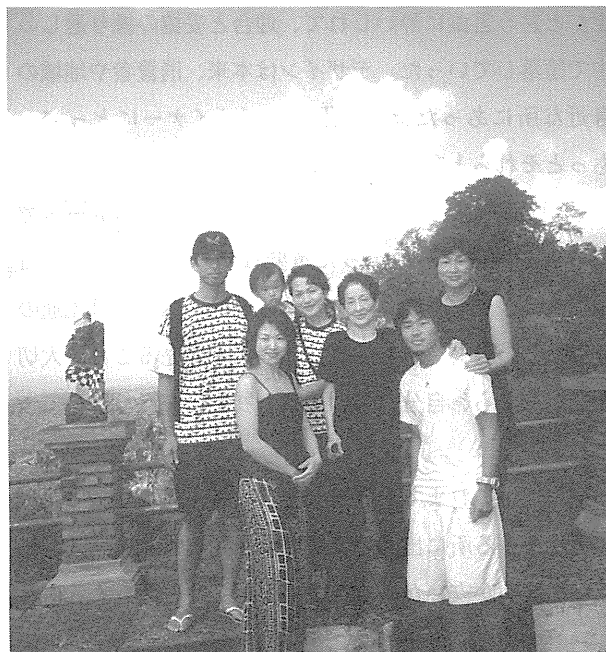


パラセーリングにチャレンジした母

感激の瞬間、絶対一生忘れないだろう。

このあと、「ひいおばあちゃん、大ちゃんも！」1才11か月のひ孫もパラセーリングにチャレンジして空に舞った。もちろんインストラクター付き。降りて来て、「モットー」と、もっと飛びたいというひ孫。79才1級障害者で車イス。162cm47kgの母が、今は小さく腰曲がり34kg。私の肩まで縮んでしまった母。生まれて初めてチャレンジしたパラセーリングだが、本当に降りて来たときの満足そうな喜びの顔！イキイキと「楽しかった！もっと高くあがりたかった。」なんて。この姿、老いて79才34kg。まだチャレンジする姿には私も負けた。

こんなキケン？な遊びでなくても、老いた人が、母のようにあんなにイキイキいつまでもチャレンジ出来たり楽しめることが出来る場所を、もっと、もっと日本にも欲しい！と思う。帰国してから、「来年はどこの国がいいかな？」なんて、来年の楽しい思い出づくりをしたいという母の姿勢を見習いたいものだ。母に孫に子供たちに、教えられること一杯の楽しい旅だった。



バリ島での家族7人、右端は宇津崎光代会員

インテリア・デザイナーのハンカチ展

会 場 — 関東・中部・関西・九州
会 期 — 1999年2月～4月

●参加希望の方には資料を送ります。

JID 関西事業支部
展覧会委員会委員長 石 原 薫

’98 JID 展準備に思う

九州事業支部展示委員 関光 信也

今春の役員改選で展覧会委員長を仰せつかった。今年は九州事業支部の「JID 展」開催の年でもあり、いきなり出番がやってきた。在来の企画展には若干の疑問を持っていた。その是非を云々するつもりは毛頭ないが、どこか絵画の展覧会のようなデザイナーであることを忘れて、作家気取りの権威主義を引きずって、いわゆる「一般」を拒絶した雲の上の出来事であるかのような非日常の表現に終始してはいなかったか？やがてデザイナーは、したたかなクライアントの耳触りの良い「先生」と言う言葉に酔いしれて、迎合と妥協の繰り返しの中で墮落していった。デザインは本来、消費者や地域の身近な所にあったように思う。デザイナーにとって、もっとそれらと向き合い対話することが重要である。

「消費者と話をしよう」これが今回イムズホールで JID 展を開催するに至った重要なテーマであった。日頃はクライアントに対して、情報を取るためには流通の言いなりの姿勢を排して直接、消費者に売ることが大切と言いながら、自分たちは待ちの展覧会を繰り返してきた。

従って、これまでの展覧会とは大きく異なり、消費者が多く集まる所に出向いて展覧会を開催する。値段も付けて、高いか安い、はたまたデザインの話をするもよし。そして、こっそりと「売る」。そうした経験が必ず明日のデザインに反映され、ひいては、産業や地域社会に貢献することになる。そもそもデザインは、消費者の買うという行為によって、暮らしの中に取り込まれ、快適さを演出することから、その価値を認められるものだと思っている。デザインそのものの進化にとって、少なくとも、今のデザインを理解できずに新しいデザインには移れない。それが啓蒙というものなのか。啓蒙とは、いわば次代への環境整備に他ならない。といっても、どれ程の消費者を啓蒙できるかは定かではないし、極めて

地道な行為である。

我が国にも多くのデザイン学校なるものがあって、毎年多くのデザイナーが輩出されている。それにも拘わらずデザインが身近に感じられない。デザインを取り巻く環境も決して良くなっていない。依然としてリスクであるが如きの扱いを受けながら…デザインは何処にいて、何をしているのか？ひょっとしたら、安全と安定を求めて組織の中に埋没したままではないか？デザインには勇気と情熱がいる。デザイナー諸氏よ、もっと勇気を持って表に出て見ようではありませんか。しかし、面白いことに、そこには間違いなく、市場という横暴な専制君主がいる。

第 1 回「例会」を終えて

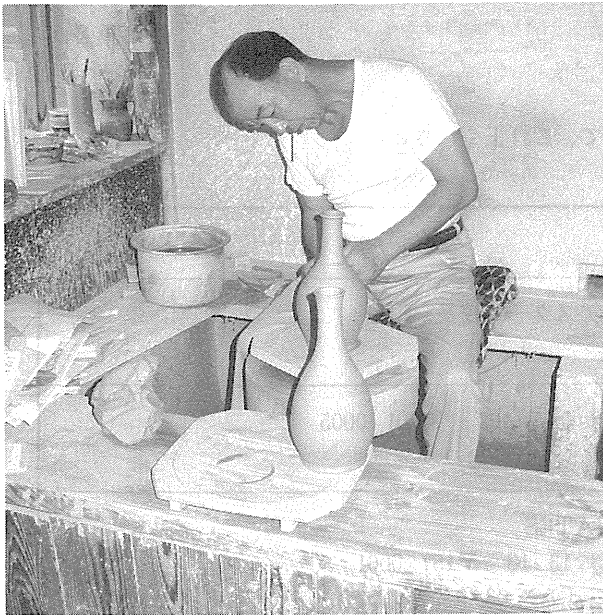
江島 太士

7月11日、今年度も昨年に引き続き、「例会」の場所を変えて、より多くの会員が参加交流できるようにと企画されました。本年第1回例会を大分地区で、しかも千原久光会員と私とで、担当してと依頼があり、地区の会員の方とも打ち合わせ、支部の要望も入れて、次の3つの内容で企画しました。

- (1) 自由の森大学についてのお話（大学実行委員長 原田啓介氏）
- (2) 小鹿田焼窯元見学（昨年、国の重要無形文化財の認定を受ける）



雰囲気のある「若野屋旅館」にて昼食をとる



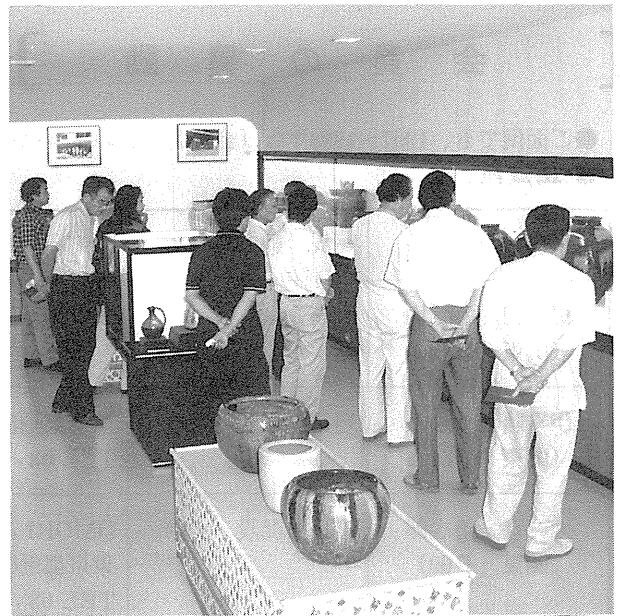
日田の山中にて「小鹿田焼」窯元を見学

(3) 小鹿田古陶館の見学（小鹿田焼の古いものを主に、久留米絣織物等を収集展示）

まず、例会会場の「若野屋旅館」に集合、ここは昭和天皇も戦後訪れたとき宿泊されたところで、木造3階建の古い建物ですが現代建築の4階と同じ位高く、日田が天領だった頃を忍ぶ町並を見渡せる豆田町の中にあります。昼食は2階の大広間、約40畳にて、やや時代を遡った気持ちを感じました。

食後、同席にて「自由の森大学」について大学実行委員長原田啓介氏に発足の経緯から現在の活動状況、今後の活動方針等についてお話を聞き、会員からの質問に答えて頂きました。自由の森大学とは、自分たちで手づくりの市民大学を開校し、文化の情報発信地として、心豊かな地域文化の土壌づくりを行いたいと考えた若い世代が集まり、1994年、大分県日田市に市民大学として発足、学長に日田市出身のジャーナリスト、筑紫哲也氏を迎え、約50名の市民ボランティアが実行委員会をつくり運営しているもので、最初の1年は資金面で苦労したが、その後は、学長のネームバリューと実行委員の努力で、受講生数も今期は1386名と年々増え、毎月1回の講演会またはシンポジウム、フォーラムを開いて活動しているということでした。

次は、会場から車で30分、日田市の北北東の山中、谷川に土を砕くから臼の音が聞こえ、ここが小鹿田の里。窯元が10軒で、一家の長男だけが後を継ぐということで、受け継がれてきたところですが、窯元の坂本茂木氏に小



日田市中心にある「小鹿田古陶館」を見学

鹿田を見渡せる展示館にてお話をお聞きました。

それによると、小鹿田焼は庶民の生活の必需品として生まれたもので、味噌醤油壺、徳利、水差し等の壺類が多く作られ、技術的にも昔の方がもっと優れていたということでした。昔は仕事仲間と酒盛りで徳利の酒が少なくなっても、重たい肉厚の徳利は、その場でこんなものはだめだと割られていたと、昔のものの作りの厳しさや現状を話して頂きました。しかし、現代では陶器の、特に一升徳利を使うことは殆どなくなり、今では皿や花器としての壺が多いように思え、その中でも、多くが床の間や玄関の飾り物として使われているのではないかとと思うと少し寂しくなってきました。

最後に「小鹿田古陶館」を見学、館長より、ここは日田の中心街にあり、民間の方が趣味で収集して開館したものと詳しい説明がありました。初期の一般生活用品として作られた水筒、蒸し器、水切り、火鉢、湯たんぽ、その他いろいろな陶器が展示され、中でも茶碗は、軽くて形、サイズの的にもとても持ちやすく感じました。今ではこれら古い小鹿田焼は、古美術的価値が高くなって来ているようです。時代の流れで、生活環境がこんなに变化したことを改めて気付く今回の見学でした。

今回の参加者は10名とやや少なかったのですが、久しぶりに会員の皆さんたちと交流の輪がひろがり、大変良かったと思っています。また、準備等で不十分な点が多かったと思いますが無事に終了することが出来て、本当に有難うございました。

[会 員 の 異 動]

●ご面倒でも、1997～1998年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

● 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
榎 田 均 (関東 P 32)	勤務先	(株)コスガ インテリアスクール校長 退任
伊 藤 公一 (関東 P 51)	自宅移転	東京都狛江市岩戸南2-3-7-102 〒201-0005 TEL 03-5497-1182
大 森 清次郎 (関東 P 60)	事務所開設	OMORI & ASSOCIATES 東京都世田谷区成城3-13-18 〒157-0061 TEL 03-5494-7218 FAX 03-5494-7219
小笠原 紀 男 (関東 P 61)	改名	小笠原 年男
榎 村 弘 子 (関東 P 65)	自宅移転	東京都江東区東砂8-5-12-503 〒136-0074 TEL・FAX 03-5690-1069
吉 良 ヒロノブ (関東 P 69)	自宅移転	東京都府中市押立町1-34-1 コ-7 府中武蔵台3-401 〒183-0012 TEL・FAX 042-363-9587
清 水 忠 男 (関東 P 82)	勤務先学科名称	千葉大学工学部デザイン工学科
高 川 恵三郎 (関東 P 90)	勤務地(出向)	(社)ニューオフィス推進協議会 東京都港区芝大門1-2-17 野依ビル2F 〒105-0012 TEL 03-5472-5921 FAX 03-5472-5925 JDX05517@NIFTY.NE.JP
田 島 憲 悟 (関東 P 93)	勤務先 自宅移転	(株)横浜プリンスホーム 建築部長 神奈川県横浜市旭区柏町153-1 〒241-0835 TEL 045-362-8641 FAX 045-362-8613 神奈川県横浜市南区六ッ川3-73-7 〒232-0066 TEL・FAX 045-715-2910
中 川 帛 子 (関東 P 99)	事務所 E-mail アドレス	n:kinuko@dp.u-netsurf.ne.jp
浜 野 晴 夫 (関東 P 109)	事務所開設	バーン ハウス「BARN HOUSE」 東京都中野区弥生町1-18-17 〒164-0013 TEL・FAX 03-3372-0028
藤 平 剛 (関東 P 114)	事務所名称	(株)プロポーション シーツー
吉 池 守 (関東 P 132)	事務所TEL・FAX	TEL 042-953-5364 FAX 042-953-0919

会 員 名	異 動 事 項	新
吉 田 寿 孝 (関東 P133)	事務所開設 自宅移転 (自宅・事務所兼)	(有)ジャムカンパニー 代表取締役 東京都三鷹市井の頭1-13-40-205 〒181-0001 TEL・FAX 0422-42-5075
伊 藤 譲 二 (関西 P155)	自宅移転	大阪府豊中市刀根山3-4-1 〒560-0045
宇津崎 光 代 (関西 P157)	部署	(株)ミセスリビング住まいの総合研究所 京都府京都市中京区烏丸御池東入仲保利町185 〒604-0844 TEL 075-252-6522 FAX 075-252-6533
桑 田 佐 智 (関西 P161)	勤務先住所	大阪府大阪市西区京町堀2-14-20 OPMAウツビル108 〒550-0003 TEL 06-444-5850 FAX 06-444-5855
坪 井 源 (関西 P166)	勤務先住所	京都府京都市下京区烏丸通り塩小路角 烏居ビル6階 〒600-8212 TEL 075-361-5477 FAX 075-351-3150
中 村 洋 介 (関西 P168)	勤務先(出向)	(株)近創インテリア 大阪府大阪市淀川区西中島5-5-15 住友生命新大阪ビル北館5F TEL 06-838-1220 FAX 06-838-1229 〒532-0011
高 濱 洋 子 (九州 P186)	自宅 FAX	TEL・FAX 096-365-5270

● 賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
(株)イトーキ (賛助 P194)	担当者部署	デザインセンター ディレクター TEL 03-5566-7331 FAX 03-5566-7250
(株)INAX (賛助 P195)	移転	東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー 14F 〒163-1314 TEL・FAX 変更なし
(株)内田洋行 (賛助 P196)	担当者	エンジニアリングセンター 設計デザイン部 部長 片平 康弘
(株)川島織物 (賛助 P198)	部署	(株)川島織物販売 営業本部営業一部 営業三課 大菅 脩三 東京都新宿区四谷4-16-3 日本生命新宿御苑前ビル2F 〒160-0004 TEL 03-5362-3636 FAX 03-5362-2752
トーソー(株) (賛助 P205)	担当者	商品開発本部 犬東 和也
(株)天童木工 (賛助 P204)	担当者	取締役東京支店長 矢吹 郁雄

◎会員名簿 1997～1998版 をもとにしてあります。

東京発のデザイン週間 『東京デザイナーズウィーク '98』のご案内

賛助会員 (株)アイデック専務取締役 藤本 文明

昨年の秋、延べ約10万人の動員数を記録した東京発のデザイン週間・東京デザイナーズウィークが、今年は10月12日(月)～18日(日)に開催されることとなりました。

今年のテーマは「いっしょに暮らすデザイン」。デザインを発信する側ショップと、受け手である生活者＝エンドユーザーが交流しながら、生活空間における新しいデザインを発見できるような興味深いイベントとなるでしょう。

中でも注目されるのは、東京デザイナーズウィークとして、初めて実施されるデザインコンペ形式のデザインプレミオ。「カップル」というテーマで、一般から広くデザインを募集し、期間中に受賞作品が発表されます。

また、参加各ショップでは、通常の展示以外に趣向を凝らした独自のイベントが行われます。各社提供のインテリアが当たるスタンプラリーも実施されますので、この機会に、インテリア散歩をしながら、東京のデザインの今を感じて頂ければと思います、ご案内申し上げます。

●開催期日／1998年10月12日(月)～18日(日)

●開催場所／東京全域の55ショップ

●青山 原宿 渋谷エリア／アイデック・ショールーム、ダ・ドリアデ青山、ハードアート青山など14ショップ

●六本木 赤坂 麻布 芝 芝浦エリア／Wilkhahn、ショップ・アイデック、ナショナルトレーディング、ユニオンなど9ショップ

●広尾 恵比寿 目黒 駒沢 自由が丘エリア／15ショップ

●五反田エリア／東京デザインセンターなど6ショップ
●新宿 千駄ヶ谷 四谷エリア／カンディハウス、フジエテキスタイル、ヤマギワ五番町ショールームなど8ショップ

●秋葉原エリア／ヤマギワリビナ本館

●西荻窪エリア H池上エリア／各1ショップ

●お問い合わせ先：東京デザイナーズウィーク事務局

〒107-0062

東京都港区南青山 1-17-11

TEL/FAX 03-3470-7699

ホームページ：http://www.tdwa.com/



いっしょに暮らすデザイン。
TOKYO DESIGNER'S WEEK '98
10.12(月)～18(日)

1998/8～9

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1998 年通巻 203 号)

1998 年 9 月 30 日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／泉 修二

〒163-1008 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560

FAX 03-5322-6559

企画・編集／JID 本部・事務局

印刷所／有限会社 コーエイ企画